

# **大船渡市スポーツ推進計画**

**令和元年度～令和 10 年度**

**令和 2 年 2 月**

**大船渡市教育委員会**

# 目 次

<b>I 計画策定にあたって</b>	<b>1</b>
1 策定の趣旨	
2 計画の位置付け	
3 計画の期間	2
<b>II 本市におけるスポーツを取り巻く現状と課題</b>	<b>3</b>
1 人口・世帯	
2 小中学生の体力の状況	4
3 市民のスポーツ実施の状況	6
(1) スポーツ大会・イベントへの参加	
(2) スポーツ教室への参加	7
(3) 東北・全国大会等への出場	
(4) スポーツ少年団への登録	8
(5) 高齢者のスポーツ実施状況	9
(6) 障がい者のスポーツ実施状況	
4 施設の復旧等の状況	10
5 施設の利用状況	11
(1) 各種スポーツ施設の利用	
① スポーツ施設全体	
② グラウンド、野球場、広場	13
③ 体育館	
④ テニスコート	15
⑤ その他施設	16
(2) 学校体育施設の開放	17
① 利用件数	
② 利用者数	18
(3) その他の施設の利用	
6 市民意識調査の結果	19
(1) スポーツの実施状況	
(2) スポーツ施設利用の満足度	
(3) スポーツ施設整備の満足度	20
7 スポーツ推進に向けた課題の整理	21
(1) 生涯にわたるスポーツの推進	
① 子どもの体力づくり	
② 働き手世代のスポーツ機会の拡充	

- ③ 高齢者・障がい者スポーツの推進
- (2) スポーツ環境の充実
  - ① 施設・設備の整備・充実
  - ② 指導者の育成・充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
  - ③ スポーツイベントを通じた交流人口の拡大
  - ④ 近隣自治体との連携

### Ⅲ スポーツ推進に向けた基本的な考え方・・・・・・・・・・ 23

- 1 基本理念
- 2 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
  - (1) 生涯にわたるスポーツの推進
  - (2) スポーツを通じたにぎわいあるまちづくりの推進
  - (3) 市民ニーズに応じたスポーツ環境の整備・充実
- 3 スポーツ推進の施策の体系・・・・・・・・・・ 25

### Ⅳ 基本施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

- 1 生涯にわたるスポーツの推進
  - (1) 子どもの体力づくり
  - (2) 働き手世代のスポーツ機会の拡充
  - (3) 高齢者・障がい者スポーツの推進・・・・・・・・・・ 27
  - (4) 競技力の向上
- 2 スポーツを通じたにぎわいあるまちづくりの推進・・・・・・・・ 28
  - (1) スポーツによる交流の促進
  - (2) 地域でのスポーツ活動の推進・・・・・・・・・・ 29
  - (3) 近隣自治体等との連携
- 3 市民ニーズに応じたスポーツ環境の整備・充実・・・・・・・・ 30
  - (1) スポーツを「ささえる」人材の育成・充実
  - (2) スポーツ施設・設備の整備・充実
  - (3) スポーツ施設等の有効活用・・・・・・・・・・ 31

### Ⅴ 計画の推進と進捗管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

- 1 計画の推進
- 2 計画の進捗管理

### 資料編

- 1 大船渡市スポーツ推進計画の策定経過・・・・・・・・・・ 33
- 2 大船渡市スポーツ推進計画等庁内検討委員会・・・・・・・・ 34
- 3 大船渡市スポーツ推進審議会・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

# I 計画策定にあたって

## 1 策定の趣旨

今日、少子高齢化の進行や情報化、国際化の進展、地域社会を取り巻く環境の変化や人々の価値観の多様化などから、精神的に豊かなライフスタイルを求める傾向がますます強まってきています。

特に、東日本大震災の影響で地域コミュニティの再構築が求められる地域においては、日常生活における身体を動かす機会の減少や人間関係の希薄化によって、体力の低下や精神的ストレスの増大が懸念されていることから、心身両面にわたり健康意識が高まり、スポーツ・レクリエーションに対するニーズが一段と大きくなってきています。

平成 23 年 6 月にスポーツ振興法（昭和 36 年法律第 141 号）を全部改正したスポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）では、スポーツを通じ幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人の権利であり、青少年の体力向上と健全育成、地域の一体感や活力の醸成、地域社会の再生、心身の健康の保持増進等、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠であるとしています。

また、国はこのスポーツ基本法に基づき、平成 24 年 3 月、国、地方公共団体、スポーツ団体などの関係者が一体となって、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進していくための重要な指針としてスポーツ基本計画を策定し、平成 29 年 3 月に第 2 期スポーツ基本計画を策定しています。

さらに、岩手県では、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会岩手・釜石開催や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、県民のスポーツに対する機運がかつてないほど高まっていることなどから、平成 31 年 3 月、「スポーツの推進による県民誰もが健やかで輝く岩手の創造」を目指し、「岩手県スポーツ推進計画」を策定しました。

このような中であって、これまで本市では、スポーツ施策について大船渡市総合計画及び大船渡市教育振興基本計画の中で位置付けて実施してきましたが、今般、国のスポーツ基本計画、県のスポーツ推進計画を指針とし、市民のスポーツ活動の状況、社会情勢の変化、地域特性等に起因する課題に対応するため、新たに「大船渡市スポーツ推進計画」を策定するものです。

## 2 計画の位置付け

- (1) 本計画は、スポーツ基本法第 10 条に規定する地方スポーツ推進計画として策定するものであり、本市のスポーツ推進の基本的な方向性を示すもので、大船渡市総合計画のスポーツ・レクリエーション部門に関するより具体的な内容を示すものです。
- (2) 計画の実施にあたっては、健康づくりや子育て支援、学校教育など関連部署、関係団体・企業等との連携を密にしながら推進しようとするものです。

### 3 計画の期間

本計画の期間は、令和元年度を初年度とした、令和 10 年度までの 10 年間とし、令和 5 年度までの 5 年間を前期、令和 6 年度以降の 5 年間を後期とします。

なお、スポーツを取り巻く環境の変化に適切に対応し、施策の見直し等に結び付けるため、5 年ごとにその時点での計画の進捗状況や社会情勢の変化等に応じて、必要な見直しを行うものとします。

## Ⅱ 本市におけるスポーツを取り巻く現状と課題

### 1 人口・世帯

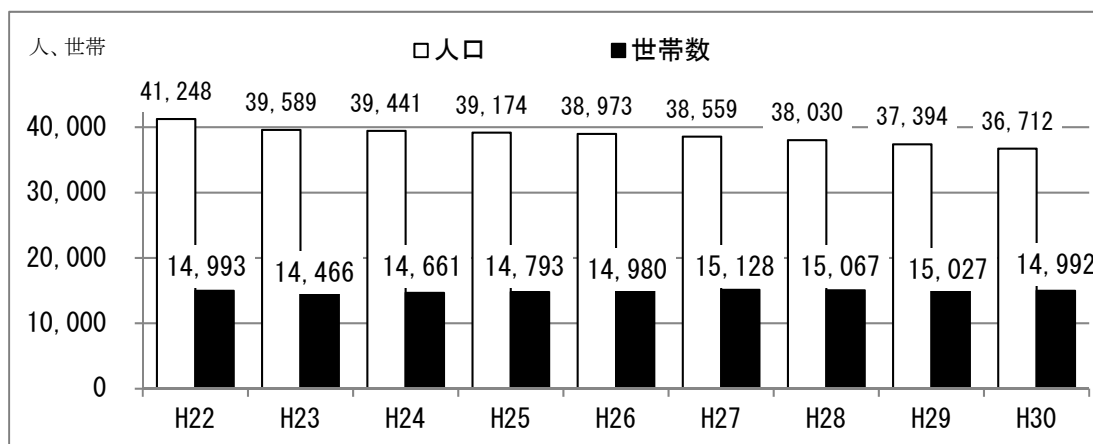
平成 22 年以降の本市の人口推移（図 1）をみると、人口は減少傾向にあり、平成 30 年には、平成 22 年と比較すると 4,536 人減少（△11.0%）し、36,712 人となっています。

一方、世帯数は、東日本大震災の影響で、平成 23 年が 14,466 世帯と、平成 22 年と比較し 527 世帯減少（△3.5%）したものの、その後微増となり、平成 30 年には 14,992 世帯と、震災前の平成 22 年とほぼ同じとなっています。

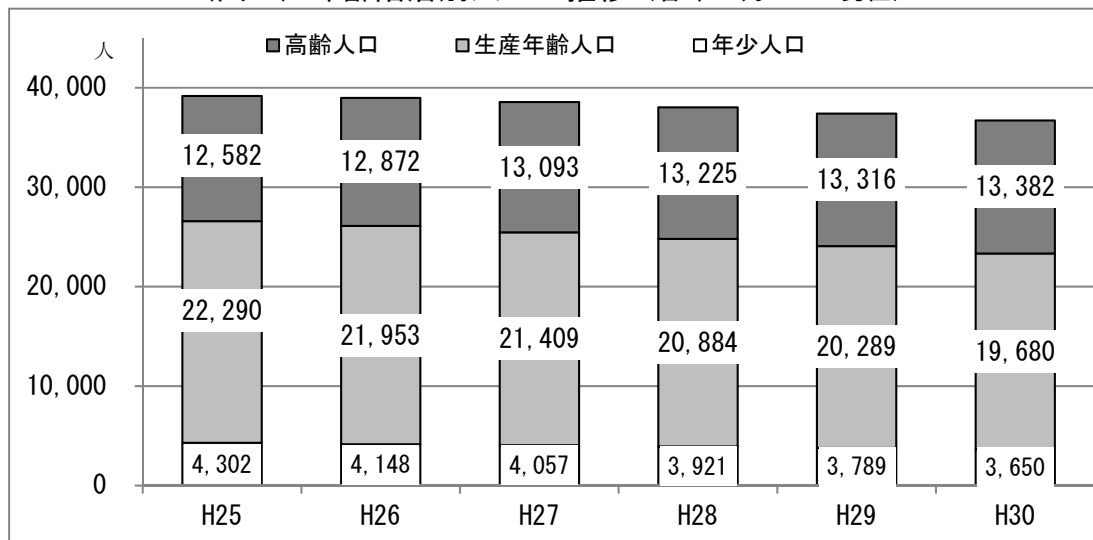
年齢階層別人口（図 2）については、平成 30 年を平成 25 年と比較すると、高齢人口は 13,382 人と 800 人増加（6.4%）、生産年齢人口は 19,680 人と 2,610 人減少（△11.7%）、年少人口は 3,650 人と 652 人減少（△15.2%）となっています。

平成 30 年の構成割合を平成 25 年と比較すると、高齢者人口は 4.4 ポイント増の 36.5%、生産年齢人口は 3.3 ポイント減の 53.6%、年少人口は 1.1 ポイント減の 9.9% となっており、少子高齢化が進行しています。

（図 1） 人口・世帯の推移（各年 9 月 30 日現在）



（図 2） 年齢階層別人口の推移（各年 9 月 30 日現在）



## 2 小中学生の体力の状況

毎年度、小学5年生と中学2年生を対象に実施される「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」(表1)において、平成26年度と平成30年度で本市の数値を比較すると、「体力合計点」では、小学5年生、中学2年生ともに男女いずれにおいても数値が伸びています。特に、中学2年生女子は50m走を除き、全ての種目で数値が上回っています。

平成30年度の調査結果で全国平均と本市を比較すると、種目によっては全国平均を下回っているものがあるものの、「体力合計点」では、小学5年生、中学2年生ともに全国平均を上回っています。

また、県平均との比較では、「体力合計点」で小学5年生の男女いずれも県平均を若干上回っているものの、中学2年生の男女では、県平均を下回る種目が多く、「体力合計点」でも県平均点を下回っています。

(表1) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果(国、岩手県、大船渡市の平均値比較)

□小学5年生・男子

項 目	H26年度(A)			H30年度(B)			B-A			H30年度	
	市	県	全国	市(C)	県(D)	全国(E)	市	県	全国	C-D	C-E
握力(kg)	17.04	17.09	16.55	16.44	16.92	16.54	△ 0.60	△ 0.17	△ 0.01	△ 0.48	△ 0.10
上体起こし(回)	19.61	19.60	19.56	20.65	20.02	19.95	1.04	0.42	0.39	0.63	0.70
長座体前屈(cm)	31.94	32.88	32.87	29.46	32.51	33.31	△ 2.48	△ 0.37	0.44	△ 3.05	△ 3.85
反復横跳び(回)	44.19	42.97	41.61	44.56	43.31	42.10	0.37	0.34	0.49	1.25	2.46
20mシャトルラン(回)	54.42	53.32	51.67	60.98	54.75	52.15	6.56	1.43	0.48	6.23	8.83
50m走(秒)	9.60	9.56	9.38	9.47	9.49	9.37	△ 0.13	△ 0.07	△ 0.01	△ 0.02	0.10
立ち幅跳び(cm)	153.17	151.56	151.70	153.10	152.41	152.24	△ 0.07	0.85	0.54	0.69	0.86
ソフトボール投げ(m)	24.86	23.92	22.90	26.42	23.48	22.15	1.56	△ 0.44	△ 0.75	2.94	4.27
体力合計点(点)	55.05	54.41	53.91	55.22	54.73	54.21	0.17	0.32	0.30	0.49	1.01

□小学5年生・女子

項 目	H26年度(A)			H30年度(B)			B-A			H30年度	
	市	県	全国	市(C)	県(D)	全国(E)	市	県	全国	C-D	C-E
握力(kg)	17.31	16.95	16.09	16.61	16.74	16.15	△ 0.70	△ 0.21	0.06	△ 0.13	0.46
上体起こし(回)	17.61	18.42	18.26	19.65	19.12	18.96	2.04	0.70	0.70	0.53	0.69
長座体前屈(cm)	36.29	36.92	37.21	35.38	36.97	37.62	△ 0.91	0.05	0.41	△ 1.59	△ 2.24
反復横跳び(回)	41.82	41.32	39.36	42.65	41.97	40.32	0.83	0.65	0.96	0.68	2.33
20mシャトルラン(回)	45.11	43.20	40.29	45.38	45.36	41.88	0.27	2.16	1.59	0.02	3.50
50m走(秒)	9.77	9.70	9.64	9.61	9.65	9.60	△ 0.16	△ 0.05	△ 0.04	△ 0.04	0.01
立ち幅跳び(cm)	148.04	146.76	144.76	147.28	147.81	145.94	△ 0.76	1.05	1.18	△ 0.53	1.34
ソフトボール投げ(m)	15.65	15.08	13.90	15.60	14.97	13.77	△ 0.05	△ 0.11	△ 0.13	0.63	1.83
体力合計点(点)	56.72	56.48	55.01	57.55	57.25	55.90	0.83	0.77	0.89	0.30	1.65

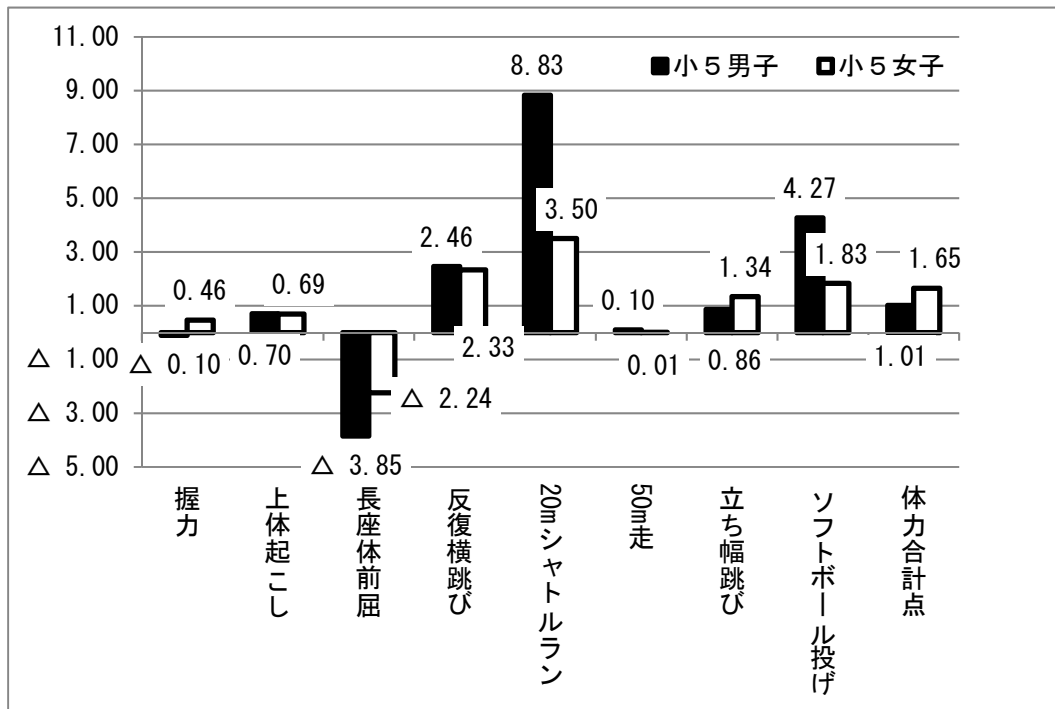
□中学2年生・男子

項 目	H26年度(A)			H30年度(B)			B-A			H30年度	
	市	県	全国	市(C)	県(D)	全国(E)	市	県	全国	C-D	C-E
握力(kg)	29.50	30.66	29.00	31.80	30.65	28.84	2.30	△ 0.01	△ 0.16	1.15	2.96
上体起こし(回)	27.80	28.12	27.45	28.11	27.80	27.36	0.31	△ 0.32	△ 0.09	0.31	0.75
長座体前屈(cm)	41.49	45.10	42.92	44.40	45.82	43.44	2.91	0.72	0.52	△ 1.42	0.96
反復横跳び(回)	52.22	52.29	51.31	53.36	52.84	52.24	1.14	0.55	0.93	0.52	1.12
20mシャトルラン(回)	90.19	86.63	85.29	89.59	86.80	86.06	△ 0.60	0.17	0.77	2.79	3.53
50m走(秒)	7.92	8.05	8.03	7.97	7.98	7.99	0.05	△ 0.07	△ 0.04	△ 0.01	△ 0.02
立ち幅跳び(cm)	193.25	197.70	193.43	196.85	199.60	195.62	3.60	1.90	2.19	△ 2.75	1.23
ハンドボール投げ(m)	21.96	21.78	20.86	21.07	21.51	20.55	△ 0.89	△ 0.27	△ 0.31	△ 0.44	0.52
体力合計点(点)	42.89	44.07	41.74	44.05	44.51	42.32	1.16	0.44	0.58	△ 0.46	1.73

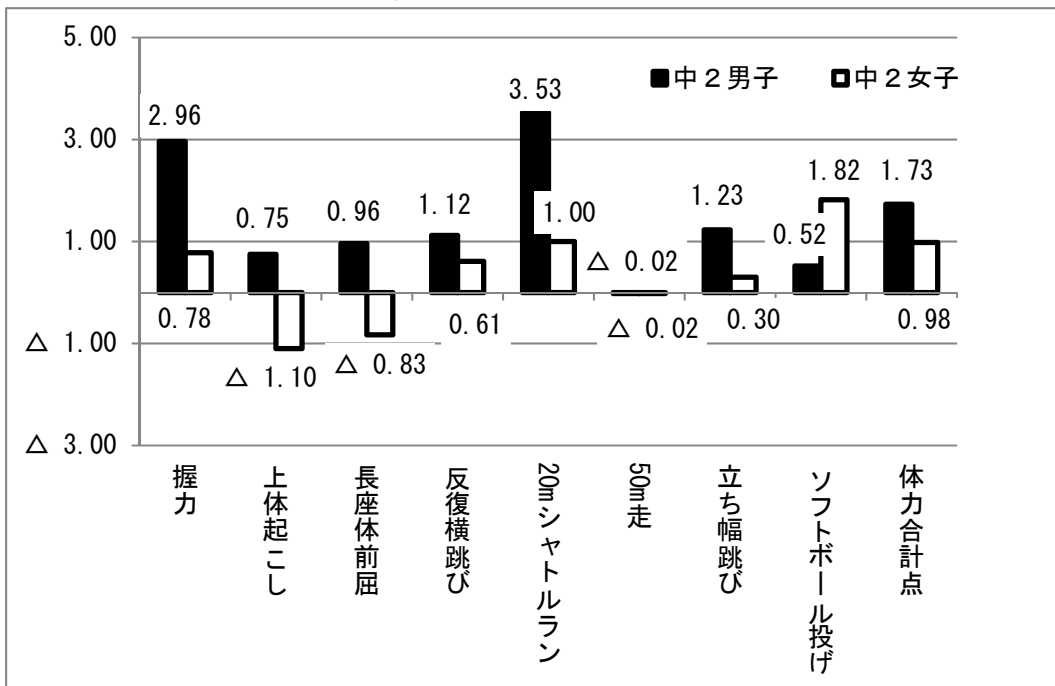
□中学2年生・女子

項 目	H26年度(A)			H30年度(B)			B-A			H30年度	
	市	県	全国	市(C)	県(D)	全国(E)	市	県	全国	C-D	C-E
握力(kg)	22.82	24.34	23.70	24.65	24.74	23.87	1.83	0.40	0.17	△ 0.09	0.78
上体起こし(回)	21.56	23.42	23.07	22.77	23.72	23.87	1.21	0.30	0.80	△ 0.95	△ 1.10
長座体前屈(cm)	43.27	46.71	45.23	45.39	47.70	46.22	2.12	0.99	0.99	△ 2.31	△ 0.83
反復横跳び(回)	46.75	46.31	45.63	47.98	47.72	47.37	1.23	1.41	1.74	0.26	0.61
20mシャトルラン(回)	59.37	59.54	57.77	60.87	60.10	59.87	1.50	0.56	2.10	0.77	1.00
50m走(秒)	8.76	8.90	8.87	8.76	8.79	8.78	0.00	△ 0.11	△ 0.09	△ 0.03	△ 0.02
立ち幅跳び(cm)	165.59	167.68	166.53	170.56	172.42	170.26	4.97	4.74	3.73	△ 1.86	0.30
ハンドボール投げ(m)	13.61	13.54	12.88	14.80	13.79	12.98	1.19	0.25	0.10	1.01	1.82
体力合計点(点)	49.01	50.36	48.66	51.59	52.18	50.61	2.58	1.82	1.95	△ 0.59	0.98

(図3) 小学5年男女 全国平均との比較 (平成30年度)



(図4) 中学2年男女 全国平均との比較 (平成30年度)





### 3 市民のスポーツ実施の状況

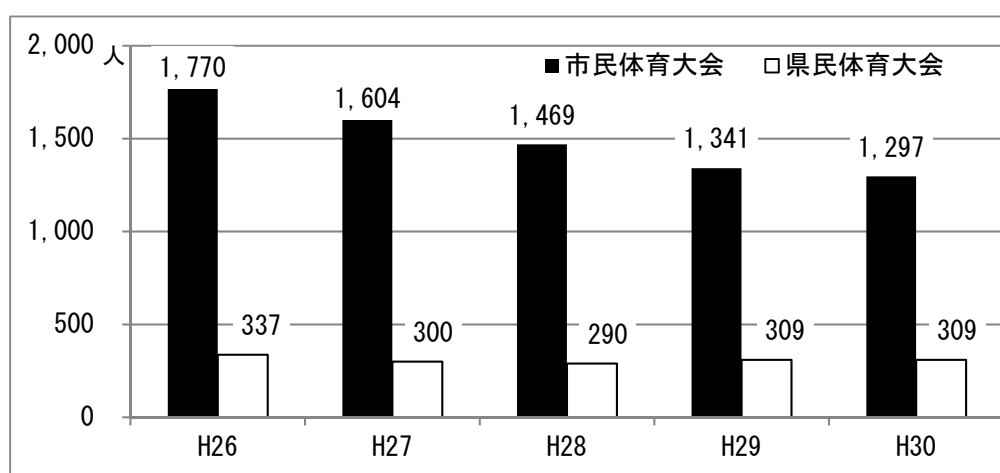
#### (1) スポーツ大会・イベントへの参加

市民が参加する主要なスポーツ大会として市民体育大会が挙げられますが、参加者数（図5）は減少を続けており、平成30年度は平成26年度と比較して約27%減少しています。一方で、県民体育大会にはチームの勝利や記録の更新を目指して、例年300人前後の選手が参加しています。

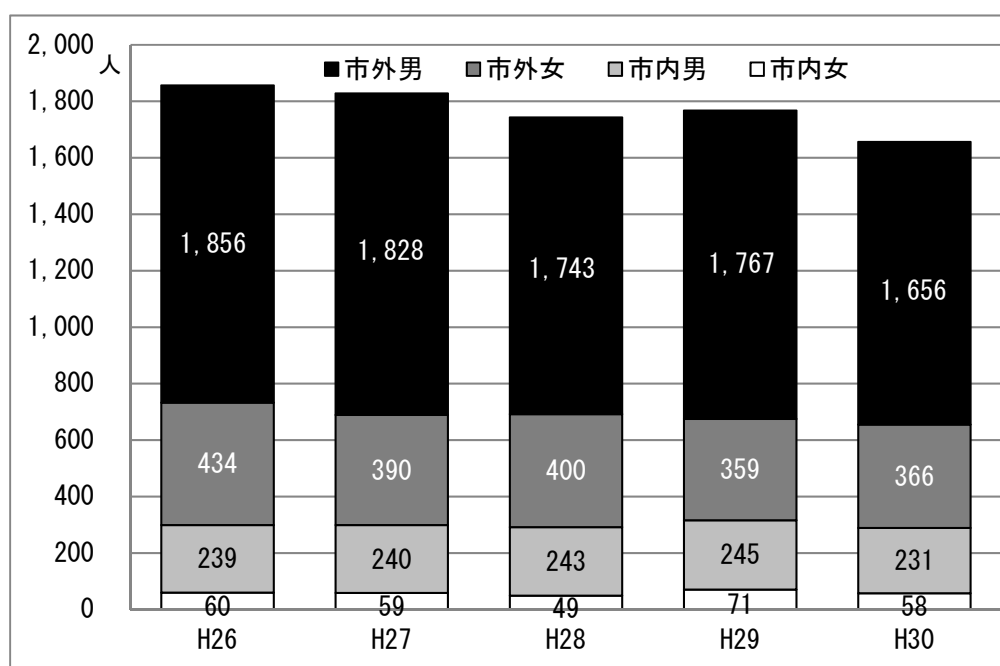
このほか、市が共催・後援する市民参加が可能なスポーツ大会は、平成30年度に30件ほど開催されており、中でも、大船渡新春四大マラソン大会（図6）は、市の一大スポーツイベントとして多くの市民が参加するとともに、市外からの参加者が8割を超えるなど、交流人口の拡大にも寄与しています。

また、東日本大震災後は、野球やサッカーを中心に、トップアスリート等によるスポーツ教室や交流大会の開催などといった復興支援活動も行われています。

（図5） 市民体育大会・県民体育大会参加者数



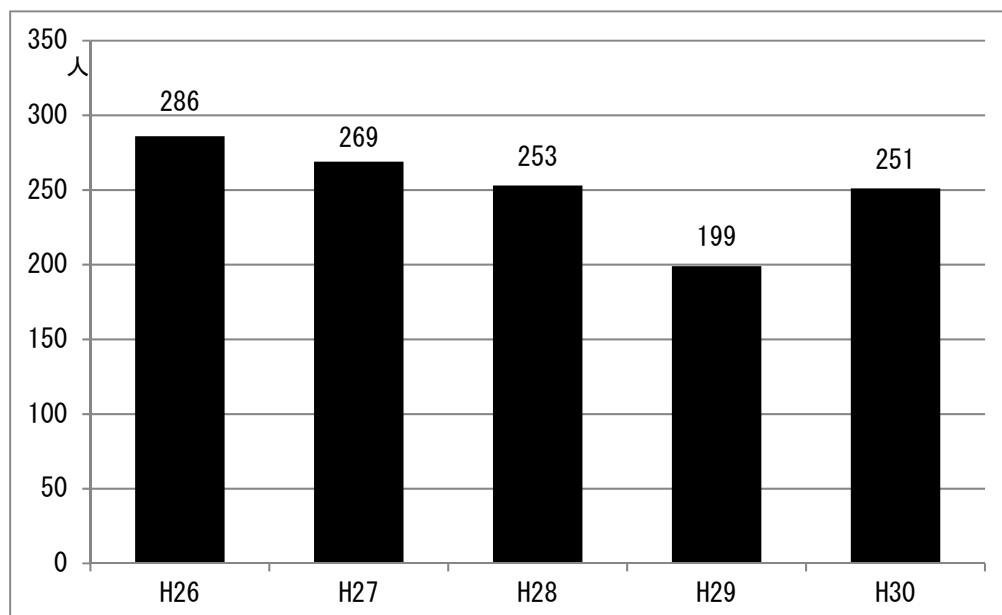
（図6） 大船渡新春四大マラソン大会参加申込者数



## (2) スポーツ教室への参加

市民がスポーツを始めるきっかけづくりを目的に、初心者を対象として開催される各種スポーツ教室（図 7）には、例年 250 人以上の市民が参加しています。平成 29 年度には 200 人を割り込みましたが、平成 30 年度には例年と同程度の参加者数に回復しています。

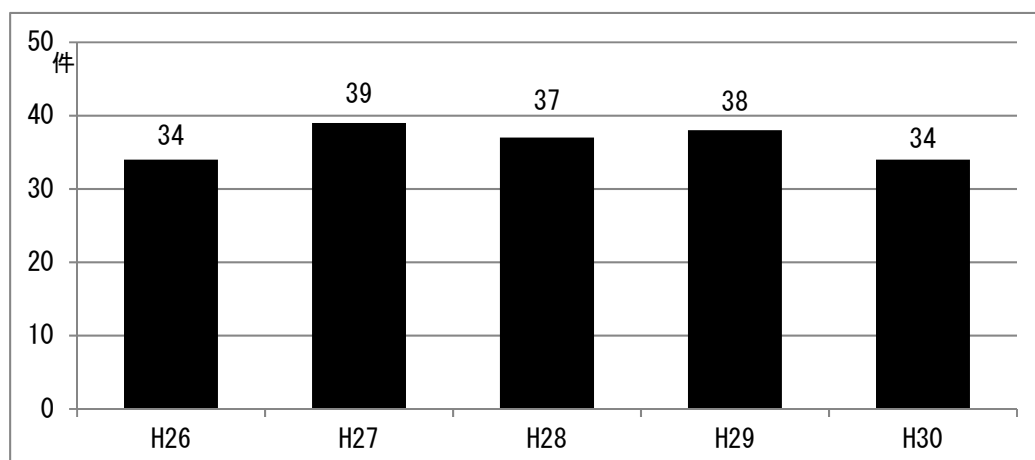
（図 7） スポーツ教室参加者数（キッズ体操教室を除く）



## (3) 東北・全国大会等への出場

本市の競技スポーツにおいては、ソフトテニスや空手道、陸上競技、柔道等を中心に、東北・全国などの上位大会へ毎年 30 件以上の出場を果たしており、活躍が続いています。

（図 8） 東北・全国大会等出場件数

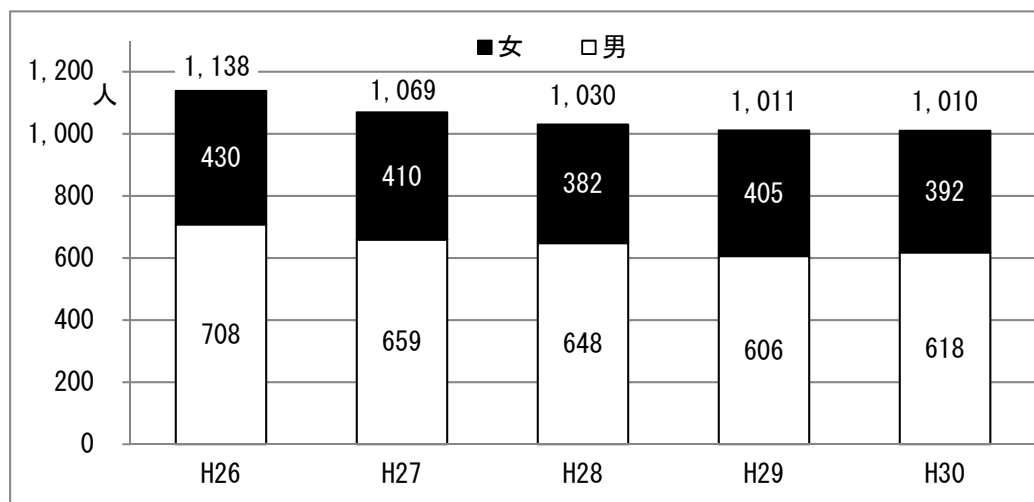


#### (4) スポーツ少年団への登録

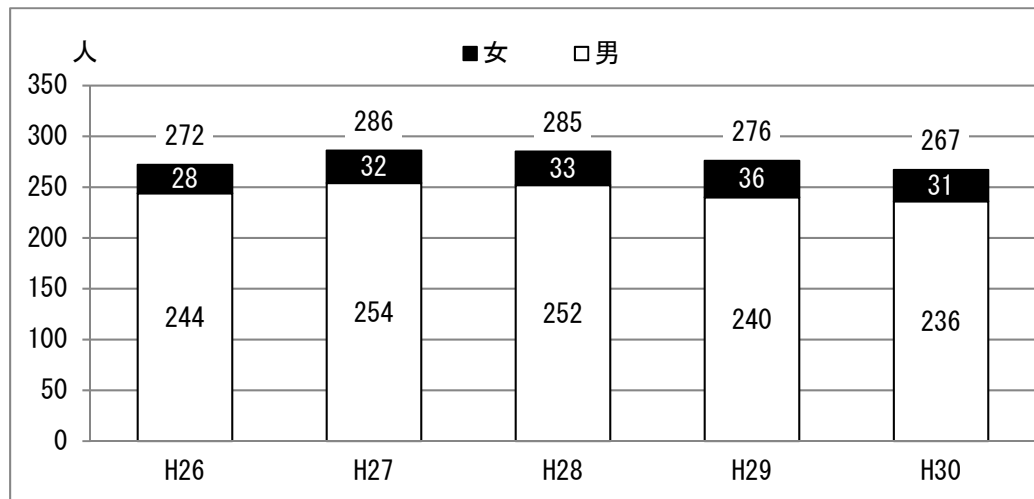
スポーツ少年団の団員登録者数（図 9）は年々減少していましたが、平成 29 年度以降は横ばいで推移しています。

主に団員の保護者などからなる指導者の登録者数（図 10）は、平成 27 年度をピークに減少しており、中でも、平成 30 年度の女性の指導者登録者数は全体の 11.6%にとどまっています。

（図 9） 団員登録者数



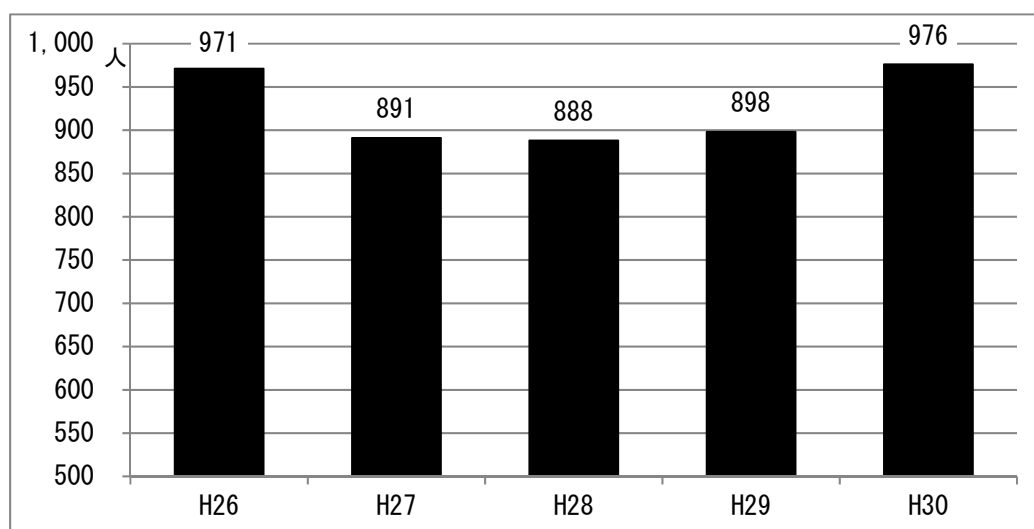
（図 10） 指導者登録者数



## (5) 高齢者のスポーツ実施状況

大船渡市老人クラブ連合会主催による親睦交流大運動会には、例年、400 人を超える参加者が集い、高齢者にとっての一大スポーツイベントになっています。また、健康づくり関連事業として、市内各地域でボッチャやカーリンコンといったニュースポーツに取り組むなど、健康寿命延伸のための一つのツールとして、スポーツが高齢者の方々に積極的に活用されています。

(図 11) 市老人クラブ連合会主催（共催）による健康づくり関連事業への参加者数

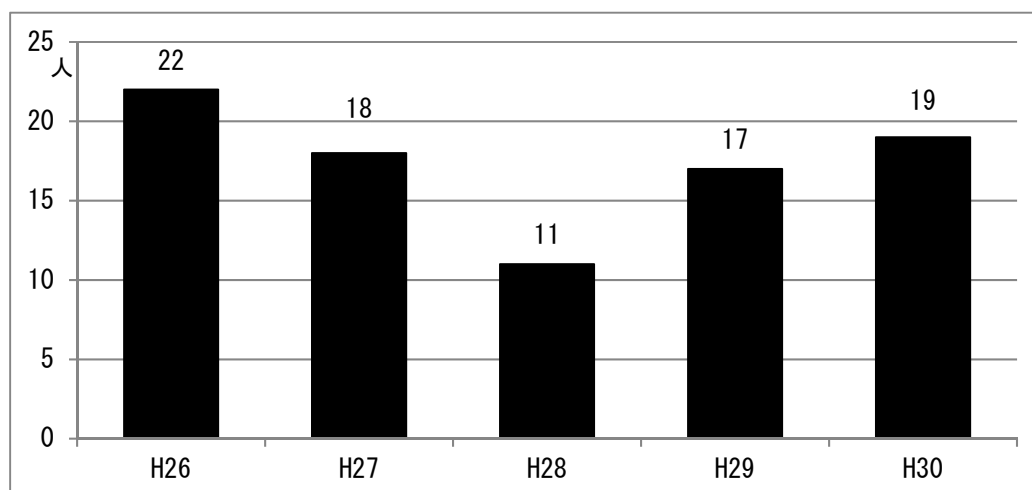


## (6) 障がい者のスポーツ実施状況

サウンド・テーブル・テニスや卓球バレー、東京 2020 パラリンピックの正式種目であるボッチャなど、いわゆる「ユニバーサルスポーツ」が障がい者の方々に親しまれています。本市においても、気仙地区障がい者スポーツ交流会（図 12）に例年参加しています。

また、希望郷いわて大会（第 16 回全国障害者スポーツ大会）の成功を受け、平成 29 年 1 月に一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会が設立され、全県において障がい者スポーツの推進体制が整備されつつあります。

(図 12) 気仙地区障がい者スポーツ交流会への参加者数



#### 4 施設の復旧等の状況

東日本大震災で、本市沿岸部の小中学校や盛川沿いのスポーツ施設は甚大な被害を受けるとともに、応急仮設住宅の建設等により供用を停止せざるを得ない施設も出ました。

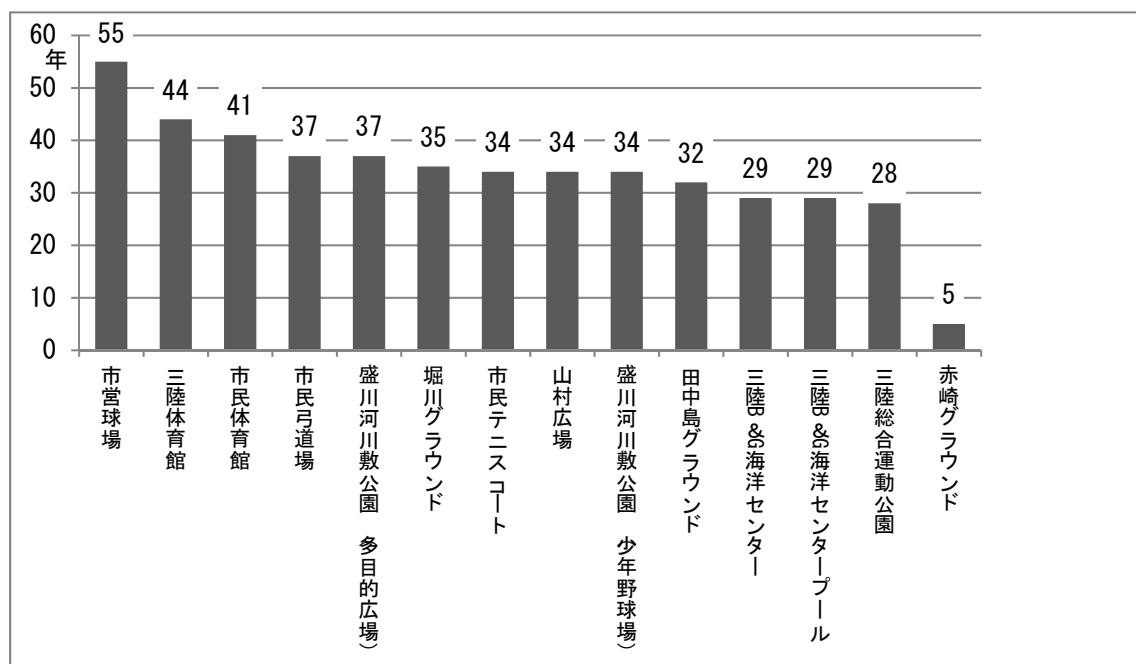
しかし、平成 30 年 7 月の市営球場の供用再開をもって、市内スポーツ施設が全て復旧するとともに、市民体育館や市民テニスコート、盛川河川敷公園など多くの施設で機能改善が図られました。また、東日本大震災により被災した旧赤崎小学校跡地を利用して、赤崎グラウンドが新設され、平成 26 年度より新たに供用を開始しました。

(表 2) 施設の復旧等の状況

施 設	復旧、機能改善の主な内容
盛 川 河 川 敷 公 園	原形復旧の後、支援を受けて少年野球場のバックネット、スコアボード、ベンチを整備したほか、多目的広場には天然芝を整備
市 営 球 場	県による復旧工事とともに、市による観客席の更新、クラック補修、球場内のラバーフェンスの更新や側溝蓋等への緩衝材の設置などを経て、平成 30 年 7 月に供用を再開
田 中 島 グ ラ ウ ン ド	原形復旧
市 民 テ ニ ス コ ー ト	コート、フェンス、備品等全てが新しくなったほか、支援により簡易スタンドを設置
赤 崎 グ ラ ウ ン ド	支援や助成制度を活用し、人工芝グラウンド、クラブハウス、観客席等を整備
市 民 体 育 館	災害復旧工事、耐震改修工事及び空調設備改修工事を実施
市 民 弓 道 場	原形復旧
堀 川 グ ラ ウ ン ド	支援を受けて、水洗トイレ、内外野フェンス、太陽光発電・蓄電による夜間照明等を整備
時 習 館 柔 道 場	支援を受け改築
被 災 小 中 学 校	改築して開放 住民の避難に対応し、床下に簡易暖房設備を整備

市内のスポーツ施設は、平成 30 年度末現在、55 年が経過した市営球場を筆頭に、そのほとんどが整備から 30 年以上経過しており、各施設の老朽化が進行しています。

(図 13) 市内スポーツ施設建築経過年数（平成 30 年度末現在）



## 5 施設の利用状況

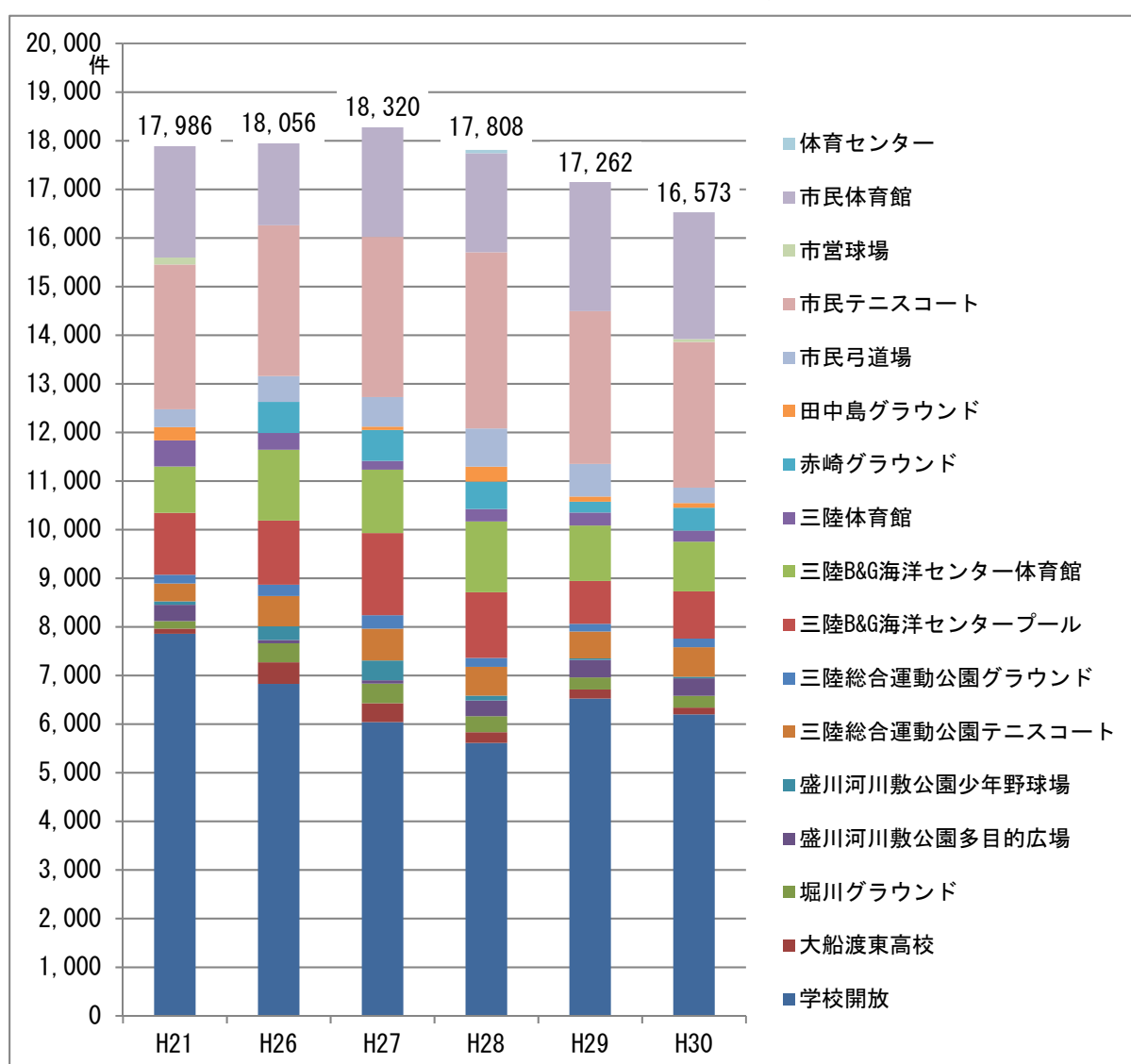
### (1) 各種スポーツ施設の利用

市内の各種スポーツ施設の利用状況の推移は、次のとおりです。

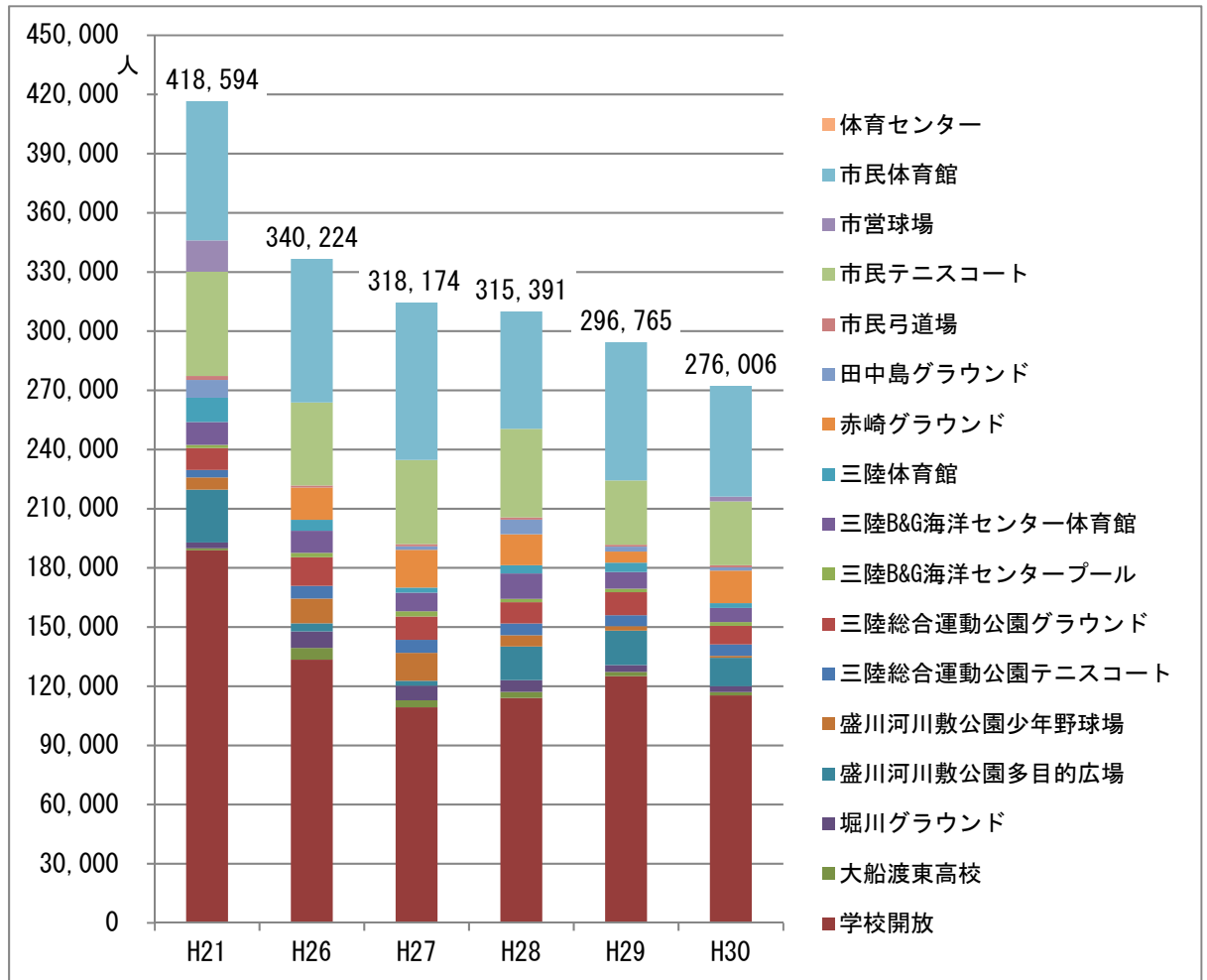
#### ① スポーツ施設全体

スポーツ施設全体の利用件数（図 14）は東日本大震災の影響を受けながらも増加傾向にありましたが、平成 27 年度をピークに減少が続いており、平成 30 年度は平成 21 年度と比較して 7.9%減の 16,573 件となっています。利用者数（図 15）については年々減少傾向にあり、平成 30 年度は平成 21 年度と比較して 34.1%減の 276,006 人となっており、利用件数よりも減少傾向が強く現れています。

（図 14） 市内スポーツ施設利用件数



(図 15) 市内スポーツ施設利用者数



## ② グラウンド、野球場、広場

グラウンドなどの屋外施設については、利用件数、利用者数ともに、平成 29 年度は赤崎グラウンド人工芝化工事の影響などで大きく減少しましたが、工事後の平成 30 年度には増加に転じました。しかしながら、平成 30 年度は平成 21 年度と比較して件数では 23.2%増加しているものの、利用者数で 31.9%減となっています。

(表 3) グラウンド、野球場、広場の利用状況の推移

(単位：件、人)

施 設	利用件数						利用者数					
	H21	H26	H27	H28	H29	H30	H21	H26	H27	H28	H29	H30
田中島グラウンド	273	—	69	307	106	96	8,969	—	1,815	7,461	2,490	1,596
赤崎グラウンド	—	639	636	567	223	473	—	16,371	19,129	15,638	5,673	16,493
三陸総合運動公園 グラウンド	180	233	277	184	156	176	11,082	14,476	11,822	10,796	11,665	9,453
盛川河川敷公園 少年野球場	70	279	405	100	33	31	6,213	12,587	14,140	5,773	2,226	924
盛川河川敷公園 多目的広場	336	69	68	323	359	363	26,760	4,082	2,499	17,012	17,490	14,430
堀川グラウンド	155	390	405	328	250	240	2,911	8,341	7,456	5,938	3,429	2,945
市営球場	143	—	—	—	—	59	15,803	—	—	—	—	2,440
県立大船渡東高校 グラウンド	52	85	206	92	80	51	540	1,550	1,585	1,745	1,250	910
合 計	1,209	1,695	2,066	1,901	1,207	1,489	72,278	57,407	58,446	64,363	44,223	49,191

## ③ 体育館

体育館については、利用件数（図 16）は平成 29 年度に微増しているものの、概ね横ばいの傾向で推移しています。利用者数（図 17）については平成 26 年度をピークに減少傾向にあります。

このうち、市民体育館の利用者数については、平成 29 年度に 71,874 人と増加したものの、平成 30 年度には 59,367 人に減少しています。平成 30 年度は、平成 26 年度と比較して 22%の減少となっています。

同様に、三陸 B&G 海洋センター体育館の利用者数は、平成 28 年度に 12,871 人と増加に転じたものの、それ以降、減少傾向にあります。平成 30 年度は、平成 26 年度と比較して 35.8%の減少となっています。

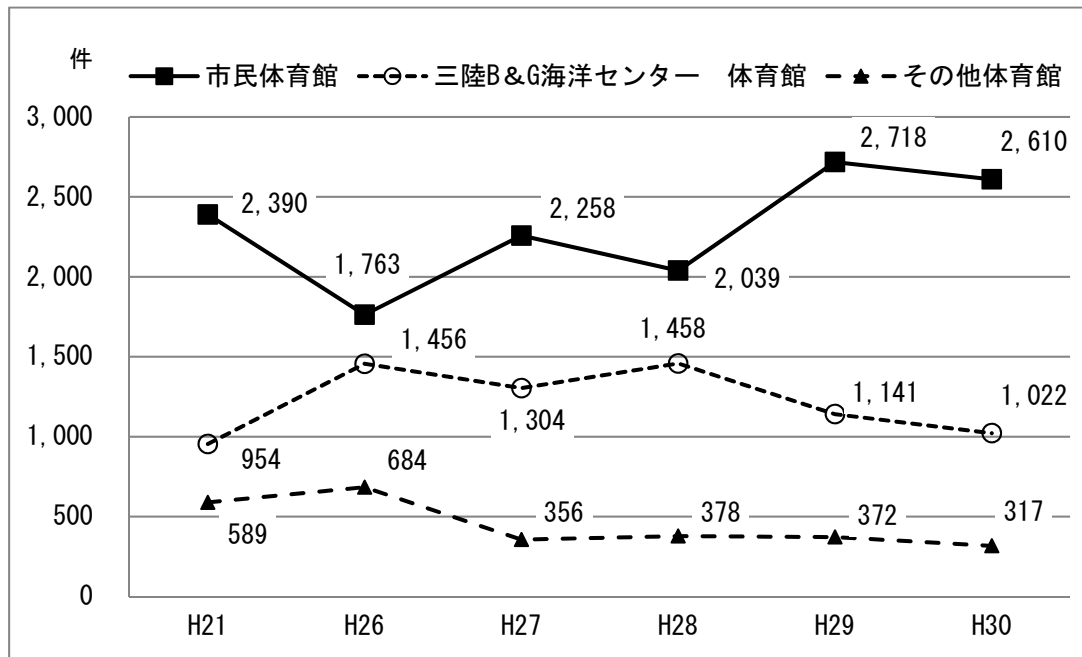
(表 4) 体育館の利用状況の推移

(単位：件、人)

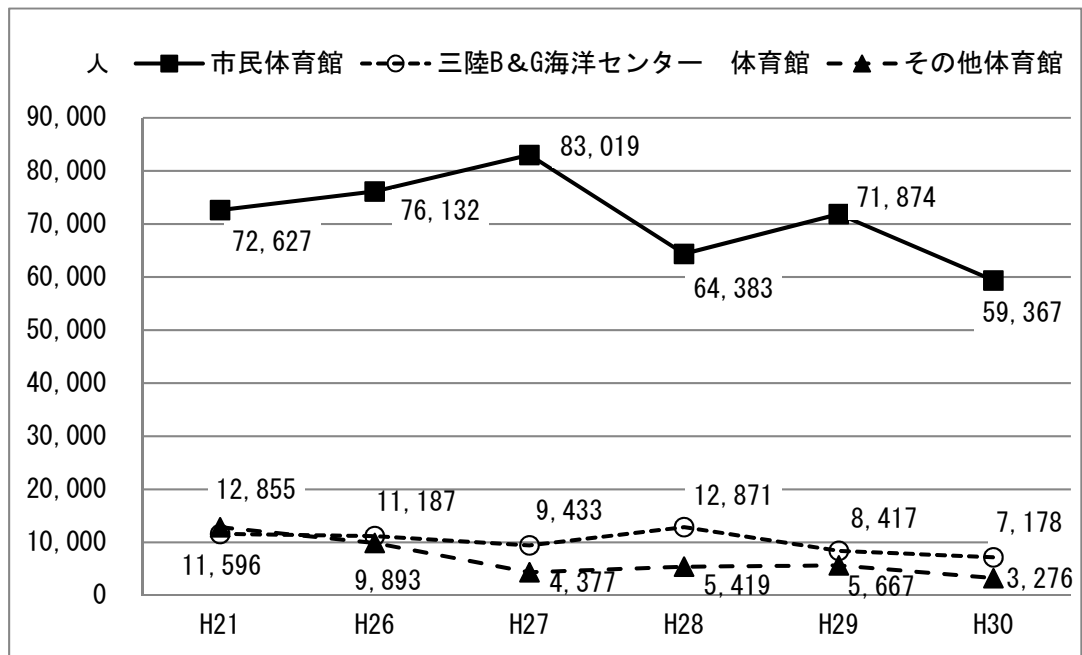
施 設	利用件数						利用者数					
	H21	H26	H27	H28	H29	H30	H21	H26	H27	H28	H29	H30
市民体育館	2,390	1,763	2,258	2,039	2,718	2,610	72,627	76,132	83,019	64,383	71,874	59,367
三陸B&G海洋センター 体育館	954	1,456	1,304	1,458	1,141	1,022	11,596	11,187	9,433	12,871	8,417	7,178
三陸体育館	537	344	179	254	268	226	12,315	5,545	2,600	4,198	4,739	2,430
県立大船渡東高校 体育館	52	340	177	124	104	91	540	4,348	1,777	1,221	928	846
合 計	3,933	3,903	3,918	3,875	4,231	3,949	97,078	97,212	96,829	82,673	85,958	69,821



(図 16) 体育館利用件数の推移



(図 17) 体育館利用者数の推移



#### ④ テニスコート

利用件数について、市民テニスコートは平成 28 年度から減少傾向で推移しています。三陸総合運動公園テニスコートについては、平成 27 年度以降、微減で推移していましたが、平成 30 年度には微増となっています。

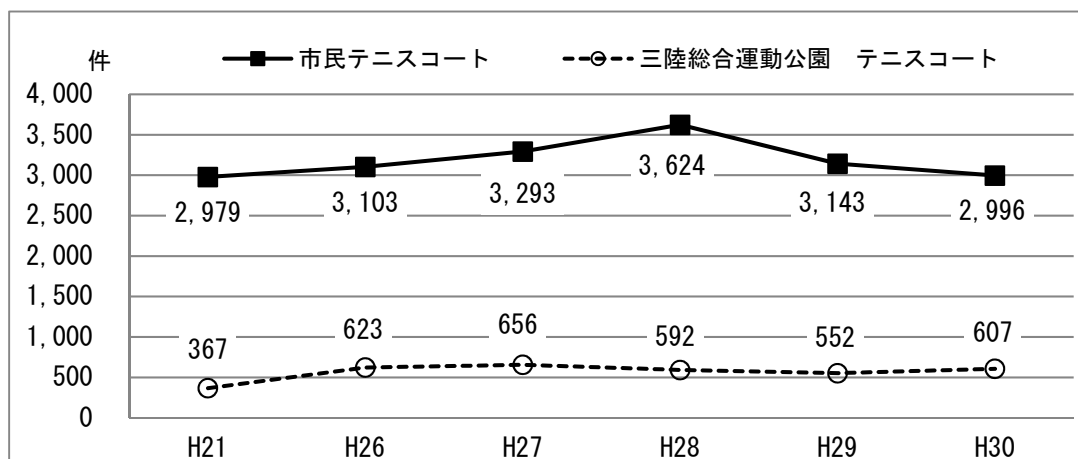
利用者数については、市民テニスコートの平成 30 年度実績は前年からほぼ横ばいとなっていますが、平成 21 年度と比較すると、38.7%の減となっています。三陸総合運動公園テニスコートについてはほぼ横ばいで推移しています。

(表 5) テニスコートの利用状況の推移

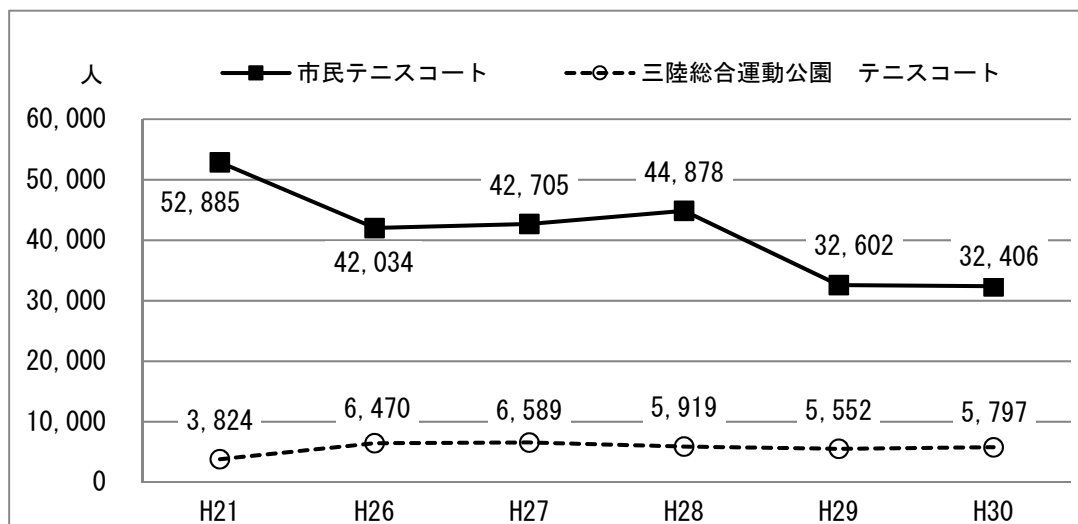
(単位: 件、人)

施 設	利用件数						利用者数					
	H21	H26	H27	H28	H29	H30	H21	H26	H27	H28	H29	H30
市民テニスコート	2,979	3,103	3,293	3,624	3,143	2,996	52,885	42,034	42,705	44,878	32,602	32,406
三陸総合運動公園 テニスコート	367	623	656	592	552	607	3,824	6,470	6,589	5,919	5,552	5,797
合 計	3,346	3,726	3,949	4,216	3,695	3,603	56,709	48,504	49,294	50,797	38,154	38,203

(図 18) テニスコート利用件数の推移



(図 19) テニスコート利用者数の推移



## ⑤ その他施設

利用件数について、市民弓道場は平成 28 年度をピークに減少傾向にあり、平成 30 年度は、平成 28 年度と比較して 59.6%の減となっています。三陸 B&G 海洋センタープールは、平成 28 年度以降減少していましたが、平成 30 年度に増加に転じています。しかしながら、平成 30 年度は平成 21 年度と比較して 23.6%の減となっています。

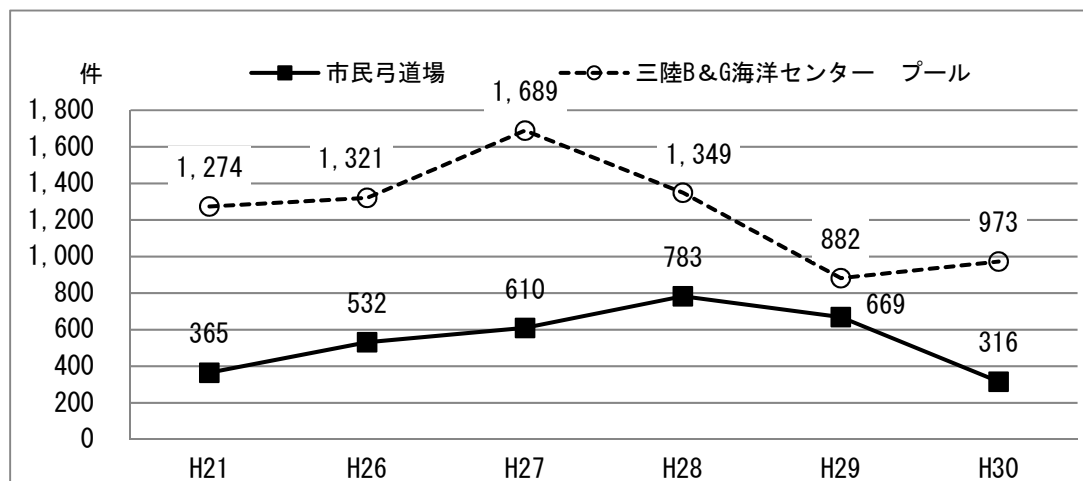
利用者数については、市民弓道場はほぼ横ばいで推移しています。三陸 B&G 海洋センタープールは平成 28 年度に大きく減少したものの、その後増加傾向にあります。

(表 6) その他施設の利用状況の推移

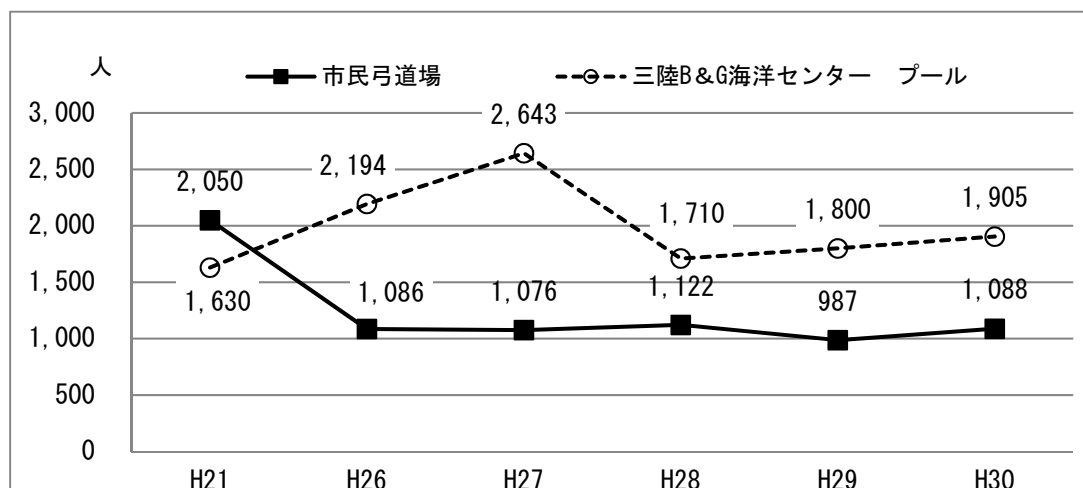
(単位：件、人)

施 設	利用件数						利用者数					
	H21	H26	H27	H28	H29	H30	H21	H26	H27	H28	H29	H30
市民弓道場	365	532	610	783	669	316	2,050	1,086	1,076	1,122	987	1,088
三陸B&G海洋センター プール	1,274	1,321	1,689	1,349	882	973	1,630	2,194	2,643	1,710	1,800	1,905
合 計	1,639	1,853	2,299	2,132	1,551	1,289	3,680	3,280	3,719	2,832	2,787	2,993

(図 20) その他施設利用件数の推移



(図 21) その他施設利用者数の推移



## (2) 学校体育施設の開放

市内小中学校の体育施設の開放状況の推移は、次のとおりです。

(表 7) 小中学校体育施設開放 学校別利用件数の推移

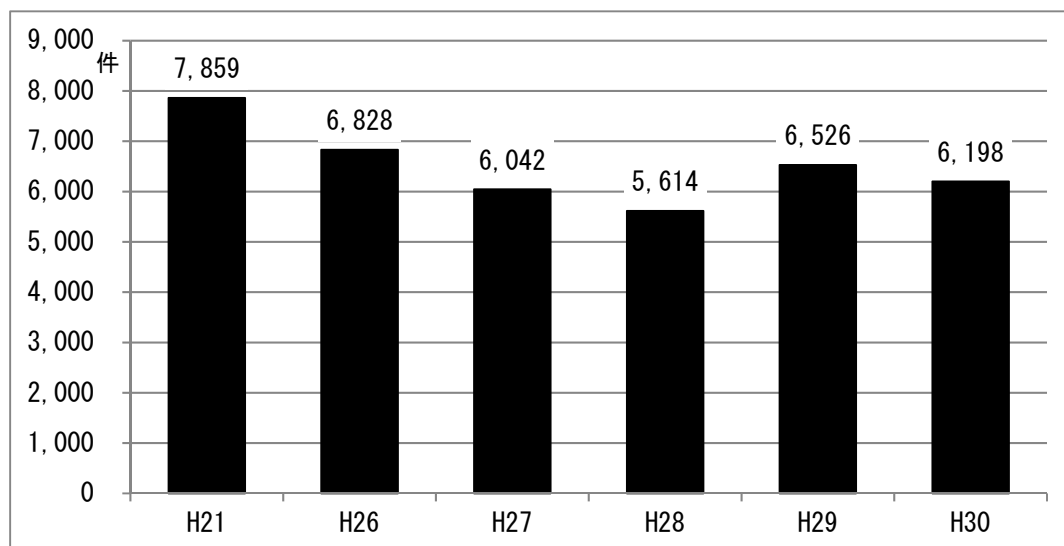
(単位：件、人)

学 校	件数						人数					
	H21	H26	H27	H28	H29	H30	H21	H26	H27	H28	H29	H30
盛小	253	398	348	302	569	503	6,080	7,031	4,781	7,963	16,800	13,220
大船渡小	541	876	812	716	424	345	14,577	22,148	17,782	16,163	8,971	7,988
末崎小	683	355	368	365	658	452	19,182	6,866	6,895	6,511	10,195	7,306
赤崎小	601	—	—	—	423	453	16,403	—	—	—	7,658	8,148
蛸ノ浦小	381	471	417	386	—	—	13,225	7,167	6,414	5,494	—	—
猪川小	832	453	315	402	511	353	24,068	5,718	4,120	8,881	16,786	10,636
立根小	914	1,076	998	906	783	746	22,847	21,189	19,455	18,854	13,042	14,371
日頃市小	604	588	378	346	327	316	11,318	10,585	10,283	8,288	6,174	5,510
大船渡北小	486	133	121	167	478	569	12,752	3,099	3,441	3,881	10,191	10,423
綾里小	215	361	299	269	323	348	6,203	7,697	5,358	5,967	6,606	7,004
越喜来小	682	336	279	307	556	680	11,860	8,980	4,120	8,782	8,603	11,154
吉浜小	537	223	237	221	170	220	12,315	3,715	4,470	3,460	3,055	3,079
小学校計	6,729	5,270	4,572	4,387	5,222	4,985	170,830	104,195	87,119	94,244	108,081	98,839
第一中	90	144	118	107	99	26	3,238	2,363	1,118	1,476	1,106	791
大船渡中	178	274	275	250	266	266	3,907	4,639	3,281	2,911	3,105	2,944
末崎中	258	279	293	292	275	280	5,572	4,536	6,028	5,686	4,339	3,746
赤崎中	170	—	—	—	166	230	2,290	—	—	—	2,205	3,584
日頃市中	139	359	378	278	248	190	3,566	5,803	6,049	4,664	2,936	2,155
綾里中	6	2	0	0	0	0	430	60	0	0	0	0
越喜来中	216	439	365	289	171	178	3,102	10,778	5,019	5,000	2,111	2,523
吉浜中	73	61	41	11	79	43	1,631	1,047	677	50	1,167	697
中学校計	1,130	1,558	1,470	1,227	1,304	1,213	23,736	29,226	22,172	19,787	16,969	16,440
合 計	7,859	6,828	6,042	5,614	6,526	6,198	194,566	133,421	109,291	114,031	125,050	115,279

### ① 利用件数

利用件数は、平成 26 年度以降減少を続けていましたが、東日本大震災により被災した 3 校の移転改築が完了し、「大船渡市学校施設環境復興宣言」がなされた平成 29 年度には、増加に転じました。しかし平成 30 年度には 330 件ほど減少しています。

(図 22) 学校体育施設開放 利用件数の推移

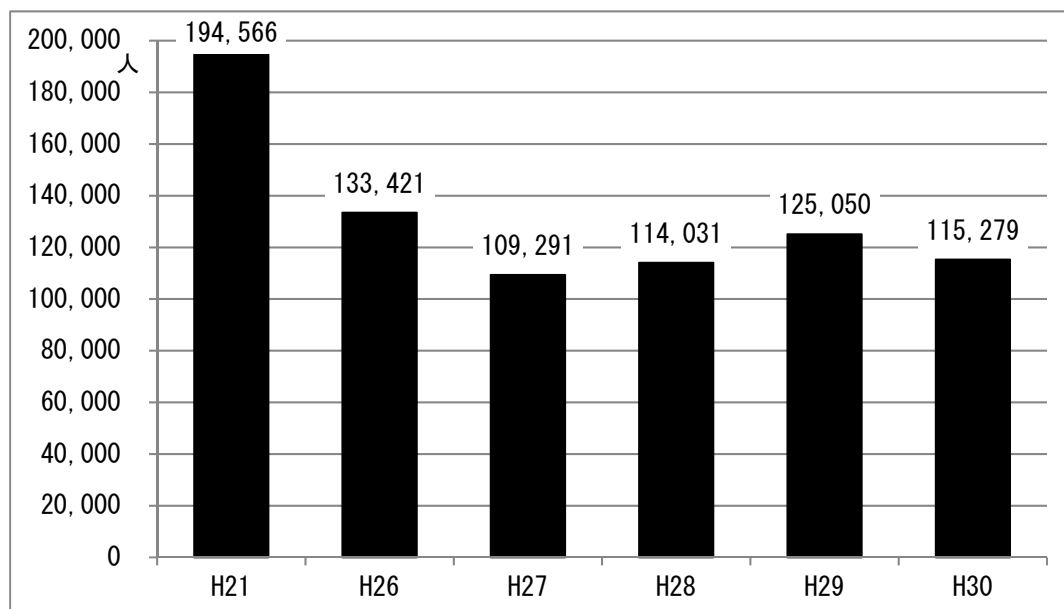


## ② 利用者数

利用者数については、東日本大震災以降の5年間で大きく減少し、平成27年度は109,291人と、平成21年度の194,566人と比較して43.8%の減となっています。

その後、応急仮設住宅の撤去によるグラウンドの復旧を受け、増加傾向にありましたが、平成30年度にはふたたび前年度より利用者が減少しました。

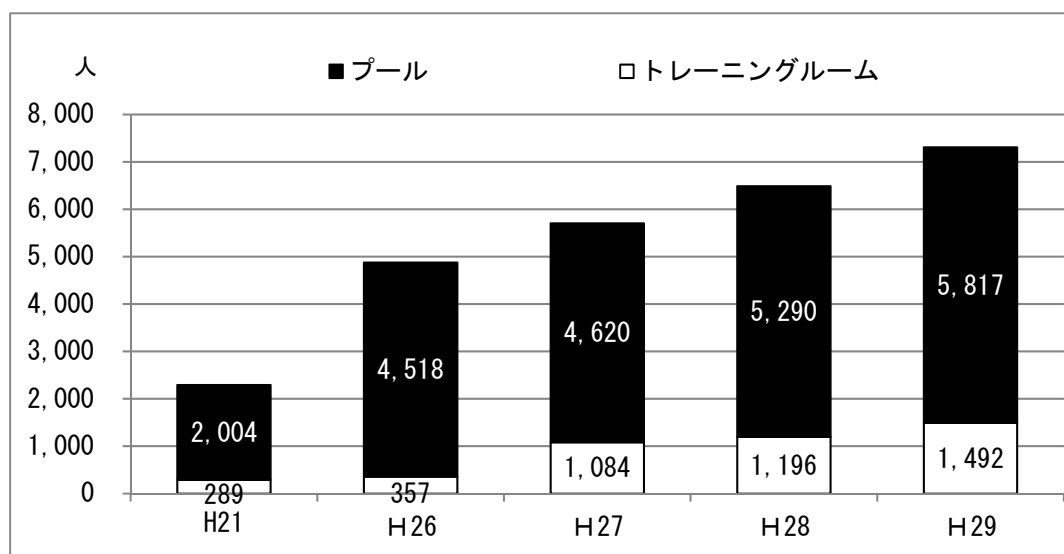
(図 23) 学校体育施設開放 利用者数の推移



## (3) その他の施設の利用

Y・Sセンターの高齢者の利用状況について、プールは平成21年度に比べ平成29年度は3,813人増の5,817人、トレーニングルームは、1,203人増の1,492人となっており、施設の利用が増加しています。

(図 24) Y・Sセンターにおける高齢者利用状況



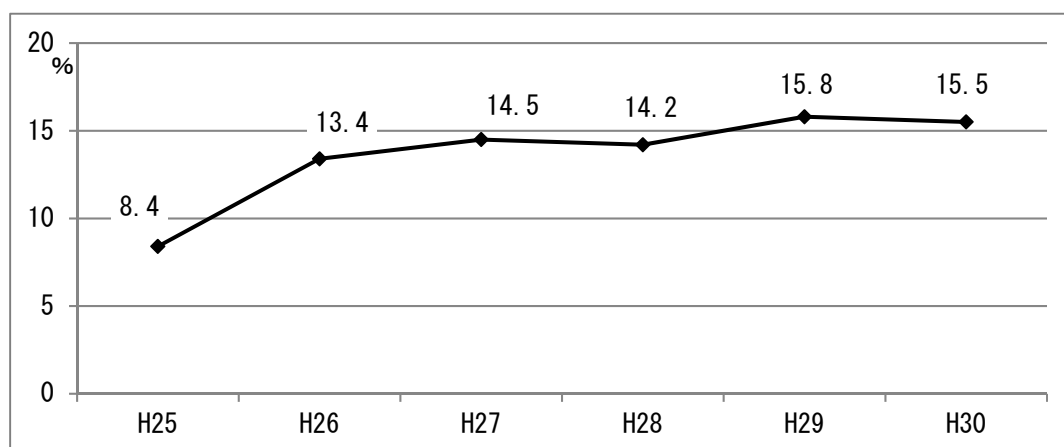
## 6 市民意識調査の結果

市では、まちづくりや施策に対する市民の意識とともに、施策目的の達成状況を評価する際に必要な成果指標の現状値を把握することを目的に、市内在住の18歳以上の男女約2,000人を無作為抽出して、毎年2月から3月にかけて市民意識調査を実施しています。

### (1) スポーツの実施状況

平成30年度に実施した調査の中で、全体の15.5%が「日頃から継続して何かスポーツを行っている」と回答しています。平成25年度と比較するとほぼ倍増しており、継続的にスポーツに取り組む人々の割合が、増加傾向にあることがうかがえます。

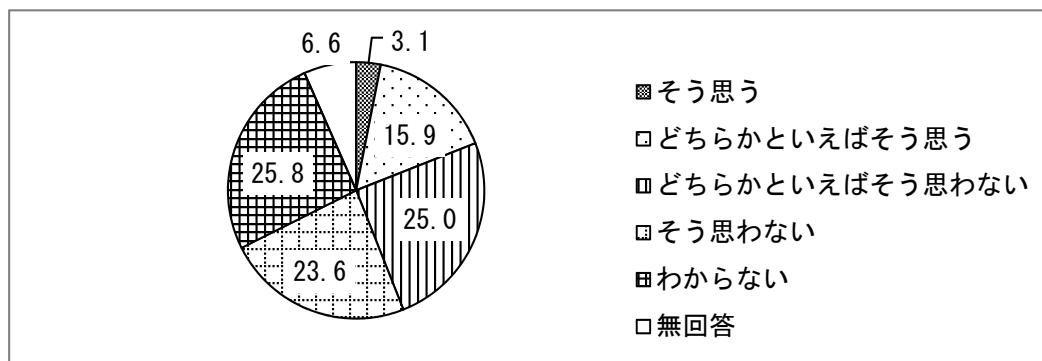
(図25) 「日頃から継続して何かスポーツを行っている」と答えた回答者の割合の推移



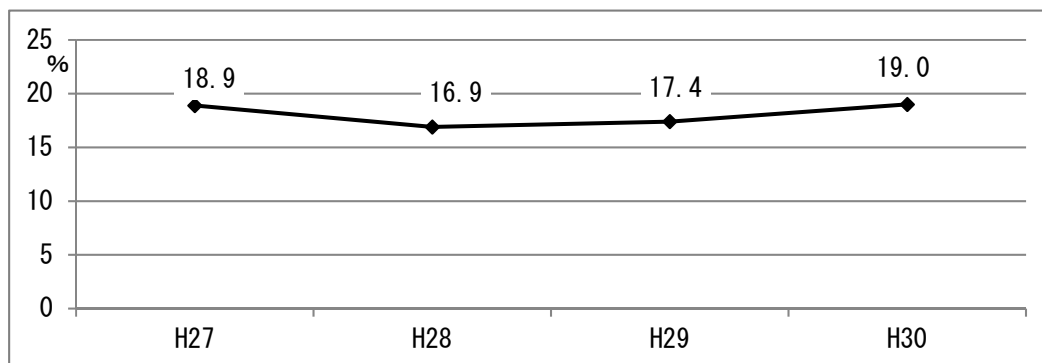
### (2) スポーツ施設利用の満足度

「スポーツ・レクリエーション施設が利用しやすいか」との問いに対し、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、回答者全体の19.0%にとどまっています。平成28年度が16.9%、平成29年度が17.4%であり、微増傾向で推移しています。

(図26) スポーツ・レクリエーション施設が利用しやすいか



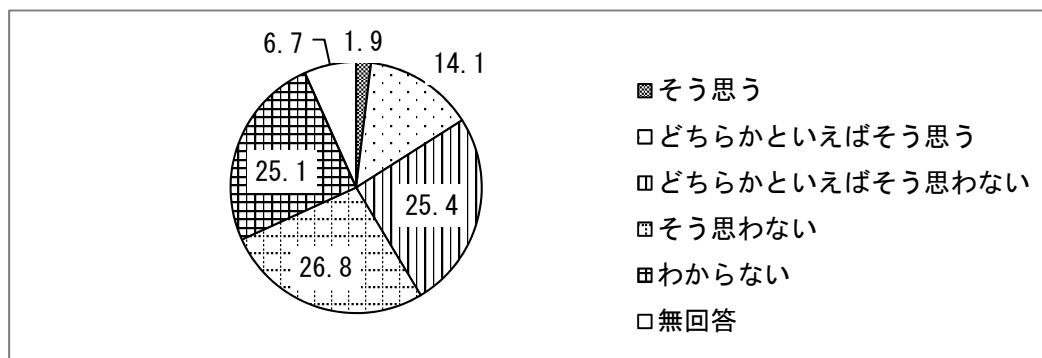
(図 27) 「スポーツ・レクリエーション施設が利用しやすい」と答えた回答者の割合の推移



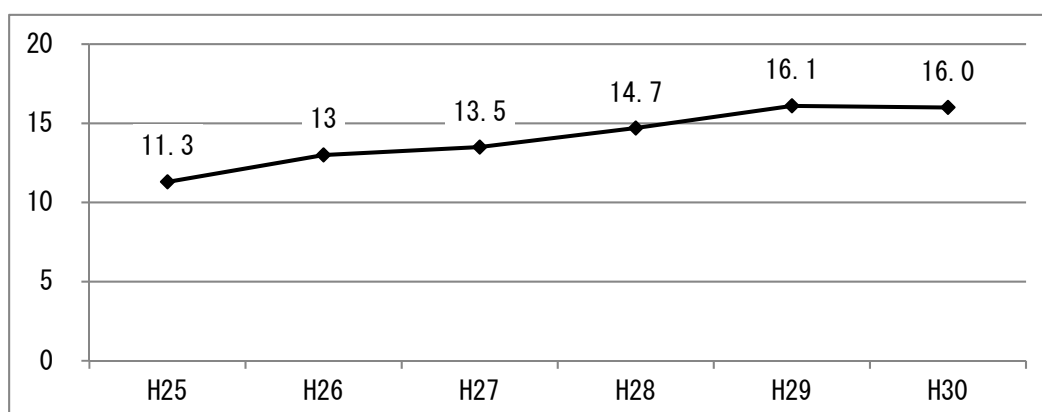
### (3) スポーツ施設整備の満足度

「スポーツ施設が整備されているか」との問いに対し、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、回答者全体の 16.0%にとどまっていますが、平成 25 年度以降、微増で推移しています。

(図 28) スポーツ施設が整備されているか



(図 29) 「スポーツ施設が整備されている」と答えた回答者の割合の推移



## 7 スポーツ推進に向けた課題の整理

### (1) 生涯にわたるスポーツの推進

本市の人口推移をみると、人口は減少傾向にあるものの世帯数は横ばいとなり、高齢人口は増加、生産年齢人口及び年少人口は減少していることから、世代ごとの課題を把握し、生涯にわたってスポーツに取り組むことができる環境を整備する必要があります。

#### ① 子どもの体力づくり

本市の小中学生の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」では、男女や年代によっては全国平均を下回っている種目もあるものの、「体力合計点」において男女問わず全ての年代で全国平均を上回っています。しかし、中学生の結果は県平均を下回る種目が多いなど、懸念材料も現れています。

ライフスタイルの変化や少子化の進行、ゲーム機やスマートフォンの普及などにより、外で遊ぶ子どもが少なくなっており、日頃運動する子としない子との体力の格差が懸念されています。今後、小中学校の体育の授業やスポーツ少年団活動、部活動を通じて、スポーツへの関心を高め、体力や運動能力の更なる向上に取り組む必要があります。

#### ② 働き手世代のスポーツ機会の拡充

東日本大震災以降、市内スポーツ施設の利用件数及び利用者数はともに減少しており、働き手世代が、気軽にスポーツに親しむ機会の創出が必要です。また、スポーツ教室やイベントは、子どもや高齢者を対象にしたものが多く、働き手世代が楽しむことのできる機会の充実が求められています。

#### ③ 高齢者・障がい者スポーツの推進

高齢者においては、健康の維持・増進とともに、スポーツを通じた仲間との交流が推進における大きな要素であり、年齢を重ねても仲間と適度に楽しめるスポーツの普及に努める必要があります。

また、スポーツから疎遠になりがちな障がい者の方々に、スポーツをより身近に感じてもらうため、障がいの程度や種類、年齢、性別を問わず誰もが楽しむことのできるスポーツ環境づくりが求められています。

### (2) スポーツ環境の充実

誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくりに向けて、スポーツを支える人材の育成や施設の整備・充実など、スポーツ環境の整備に向けた取組が必要です。

#### ① 施設・設備の整備・充実

本市のスポーツ施設は全体的に老朽化が進んでおり、市民意識調査の結果でも、整備が遅れていると感じる市民が約半数を占めています。

このことから、既存施設の維持・管理を適切に行っていくとともに、市総合計画や財政計画との整合を図り、公共施設等総合管理計画に基づき、計画的に整備を進めることが求められています。



## ② 指導者の育成・充実

本市では、一人でも多くの市民がスポーツに親しむ環境をつくるため、大船渡市体育協会と連携し、各種目別協会が主催する各種指導者養成講習会への参加促進などに努めていますが、市民の多様なニーズに応えられるよう、今後も、指導者の育成・充実に取り組んでいく必要があります。

## ③ スポーツイベントを通じた交流人口の拡大

大船渡新春四大マラソン大会などのスポーツイベントは、市外からの多くの参加者の交流の場として、また、子どもから高齢者まで、様々な世代がスポーツを気軽に楽しむ機会として、更に充実を図っていく必要があります。

また、スポーツ施設を有効活用しながら、交流人口の拡大に努めていく必要があります。

## ④ 近隣自治体との連携

これまで、地区大会規模であれば、各自治体が有する施設に合わせて分散開催し、全県規模の大会では近隣自治体にまたがって会場を設定するなど、施設の補完・相互利用が行われてきたところですが、今後、多様化する利用者ニーズを見据え、広域的な視点でのハードとソフト両面にわたる連携を検討していく必要があります。

### Ⅲ スポーツ推進に向けた基本的な考え方

#### 1 基本理念

スポーツ基本法に基づいて国が策定した第2期スポーツ基本計画のうち、「中長期的なスポーツ政策の基本方針」の中で、スポーツに取り組む意義について、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」ことでみんながその価値を享受できること、スポーツを生活の一部とすることで、人生を楽しく健康で生き生きとしたものにできること、さらには、スポーツの価値を共有し、人々の意識や行動が変わることで、社会の発展に貢献できることなどを掲げ、様々なスポーツ活動に、主体的に関わっていくことが重要であるとしています。

本市では、東日本大震災で被災したスポーツ施設が全て復旧するとともに、市民体育館や市民テニスコートを始め、多くの施設について震災以前より機能改善が図られています。また、被災した旧赤崎小学校跡地には、多目的運動場として赤崎グラウンドが整備され、平成26年度から供用を開始しています。

これまで、市民各層を対象としたスポーツ・レクリエーション機会の提供、交流人口拡大に配慮した各種スポーツ大会の開催支援、スポーツ施設の整備・充実に努めてきましたが、今日の長寿社会にあって、健康づくりや体力向上など、様々な観点からスポーツに対する市民の関心をより高めるとともに、利用者のニーズを踏まえ、スポーツ機会の更なる拡充やスポーツを通じたにぎわいあるまちづくりに努めていく必要があります。

これらのことから、「スポーツを通じて心身ともに健康で豊かな生活の実現」を基本理念とし、子どもから高齢者まで、生涯にわたって市民の誰もがそれぞれの状況に合わせて気軽にスポーツに親しむことができ、また、次代を担う子どもたちがスポーツを通じて夢や希望を抱けるような環境づくりを進めます。

## 2 基本方針

基本理念の実現のため、本計画では以下に掲げる3項目を基本方針とし、今後の取組を進めていきます。

### (1) 生涯にわたるスポーツの推進

市民が生涯を通じて、いつでも、どこでも、誰でも気軽にスポーツに親しみ、健康の保持増進や体力向上、スポーツ・レクリエーション活動の促進を目的に、主体的にスポーツに取り組むことのできる環境づくりを推進します。

指 標	令和元年度基準値 ※平成30年度実績	令和5年度目標値	令和10年度目標値
日頃から継続してスポーツを行っている市民の割合	15.5%	17.0%	19.0%
市内スポーツ施設の利用者総数	276,006人	260,500人	245,000人

### (2) スポーツを通じたにぎわいあるまちづくりの推進

スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」ことで生み出される達成感や感動、人々の交流やふれあいによる連帯感を、地域のコミュニティ形成とにぎわいあるまちづくりの活力とします。

指 標	令和元年度基準値 ※平成30年度実績	令和5年度目標値	令和10年度目標値
大船渡新春四大マラソン大会の参加者数	1,656人	1,700人	1,800人
大船渡市スポーツ合宿支援補助金の対象団体数、人数	0団体 0人	3団体 60人	5団体 100人

### (3) 市民ニーズに応じたスポーツ環境の整備・充実

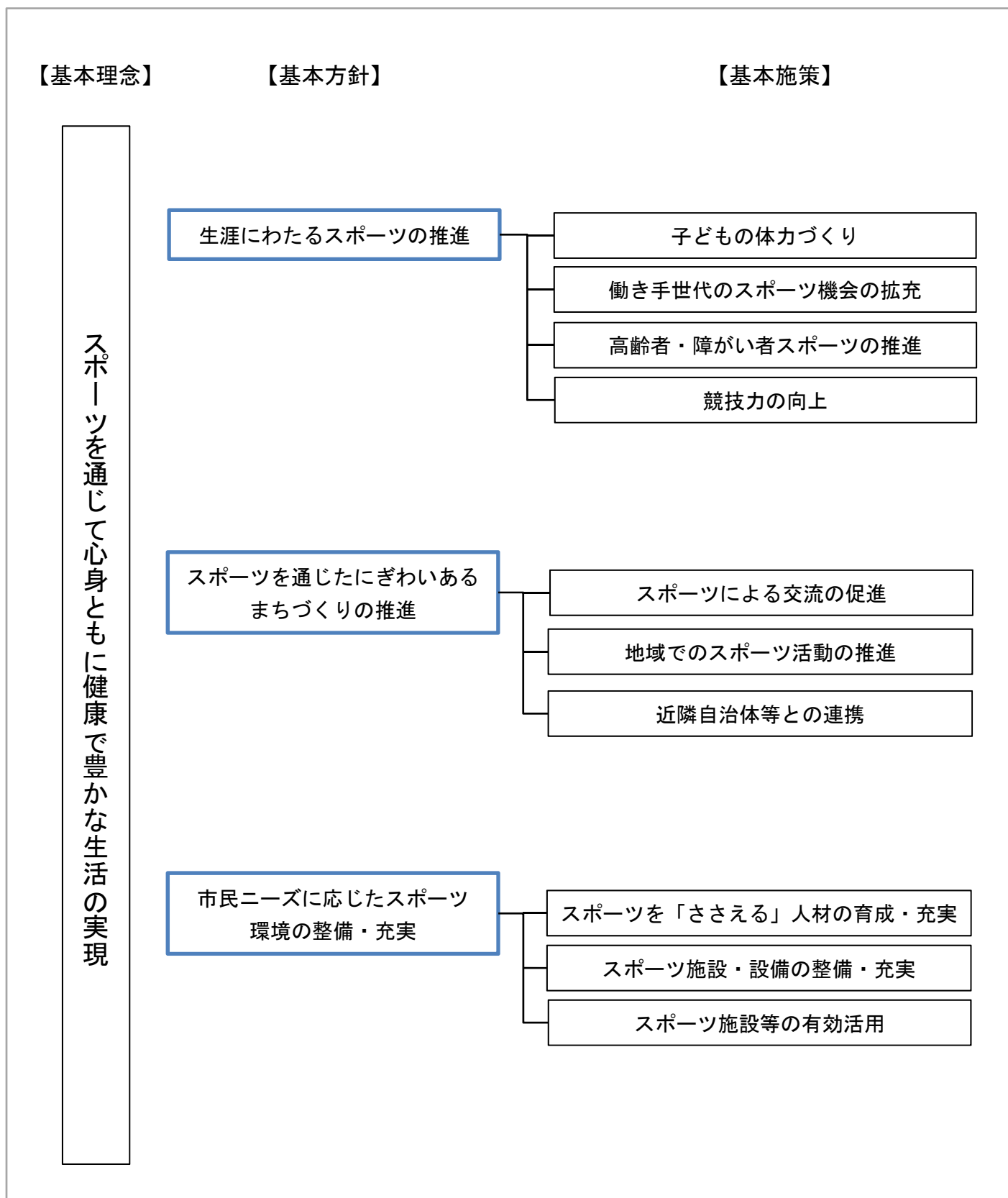
指導者の養成や資質向上に取り組むことでスポーツを「ささえる」人材の育成を推進します。また、今後ますます加速する人口減少に応じて、スポーツ施設の適正配置・適正管理を図りながら、スポーツ環境の持続的な提供に努めます。

指 標	令和元年度基準値 ※平成30年度実績	令和5年度目標値	令和10年度目標値
市が主催するスポーツ指導者講習会の参加者数	30人	35人	40人
スポーツ施設利用の満足度*	19.0%	21.0%	23.0%

※市民意識調査で「スポーツ・レクリエーション施設が利用しやすいか」との問いに対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合

### 3 スポーツ推進の施策の体系

(図 30) スポーツ施策の体系図



## IV 基本施策

### 1 生涯にわたるスポーツの推進

#### (1) 子どもの体力づくり

- 幼児期においては、市関係部署や認定こども園、幼稚園・保育園、関係団体等が連携して、運動する機会や場を創出し、運動習慣の定着化を図ります。
- 子どもの体力や運動能力の向上には、子ども自身が体を動かすことの楽しさを発見することが大切です。運動を「スポーツ」として捉えるのではなく、様々な「遊びの延長線上にあるもの」として考え、家庭や学校、地域、関係団体と連携して、体を動かす遊びの機会の創出や環境づくりを進めます。

主な事業	事業内容
スポーツ教室開催事業	キッズ体育教室、ジュニア陸上教室など幼児から小中学生を対象として、各種教室を開催

- 小中学校における体育の授業や休み時間の遊びが、子どもたちの体力づくりの基礎となることから、楽しんで運動に取り組めるような魅力ある授業づくりの推進や、体を動かして遊ぶきっかけづくりに取り組みます。
- スポーツ少年団活動・部活動を通じて、スポーツの楽しさや喜び、爽快感や達成感といった精神的充足や自主性、協調性を養うことで、スポーツの意義について学ぶとともに、運動習慣の定着、体力の向上につなげていきます。

主な事業	事業内容
スポーツ少年団活動支援事業	スポーツ少年団の設立に関する指導や登録、運営費の助成などを実施
スポーツ少年団運動適性テスト測定会	スポーツ少年団を対象とした体力測定会を実施

#### (2) 働き手世代のスポーツ機会の拡充

- 将来に向けた自身の健康づくりや、親子、家族のふれあいのきっかけとして、スポーツは有効な手段の一つです。幅広い働き手世代において、それぞれの年代に合わせたスポーツ機会の創出、充実を図るとともに、スポーツイベント情報等を積極的に提供します。
- 特に、中高年期において、元気で豊かな生活を送るため、健康づくりを目指した各種スポーツ教室や気軽に取り組むことのできるウォーキングなどのイベントを開催し、生活習慣病の予防を図ります。

主な事業	事業内容
学校体育施設開放事業	市内小中学校の体育館、グラウンドを市民のスポーツの場として開放
市民体力測定会	市民を対象とした体力測定会を実施
ファミリーウォーキング	親子参加型のウォーキングイベントを実施

### (3) 高齢者・障がい者スポーツの推進

- グラウンド・ゴルフやゲートボール、ウォーキング、ラジオ体操など、体力に自信のない人でも気軽に参加できるようなスポーツ機会の拡大を図ります。
- 大船渡市老人クラブ連合会や大船渡市社会福祉協議会などと連携しながら、より多くの高齢者がスポーツ活動に参加し、スポーツを通じた交流機会の拡充を図られるよう支援していきます。
- 健康おおふなと21プランや大船渡市高齢者福祉計画との整合性を図りながら、高齢者の体力づくりや生きがいくくりによる健康寿命の延伸を目指します。

### (4) 競技力の向上

- 東北大会以上の大会に出場する児童生徒に対し、交通費や宿泊費の一部を助成するほか、大会等で優秀な成績を収めた個人、団体等に対し表彰を行うなど、活動の支援とモチベーションの向上に資する取組に努めます。

主な事業	事業内容
全国大会等出場奨励事業	東北大会や全国大会に出場する本市代表選手に対し、激励金を交付
体育功労者等顕彰事業	競技団体等の発展に貢献した人や優秀な成績を収めた選手を表彰
体育協会加盟団体活動支援事業	加盟団体の活動費を助成し、日常的な活動と市民のスポーツ参加を推進
選手強化助成事業	競技力向上のため、加盟団体へ選手強化費を助成
岩手県民体育大会選手派遣支援事業	県民体育大会の選手派遣費を助成し、大会参加を促進

- 復興支援団体や関係団体等と協力して、トップアスリートによるスポーツクリニック等を開催するなど、一流選手の技術、メンタル等に触れる機会を提供し、選手の意識と競技力の向上に努めます。
- 市外の高校や大学等のスポーツ関係部の合宿誘致に努め、市内の中高校生との合同練習や試合の実施を通して、競技力の向上を図られるよう取り組みます。

## 2 スポーツを通じたにぎわいあるまちづくりの推進

### (1) スポーツによる交流の促進

- 市民体育大会をはじめ、高齢者スポーツ交流大会、スポーツ少年団交流大会、ニュースポーツ・フェスティバル、さらには各種スポーツ教室の開催など、競技スポーツに限らず、日常的に市民がスポーツに親しむ機会の創出を図り、市民間の交流機会の拡充を促進します。

主な事業	事業内容
市民体育大会	スポーツへの関心を高め、スポーツ活動を促進することを目的に市民体育大会を開催。平成 30 年度は 15 競技を実施
高齢者スポーツ交流大会	各地域の老人クラブ対抗による、ニュースポーツを通じた交流大会
スポーツ少年団交流大会	綱引き、長縄跳び、ドッチビーを実施
ニュースポーツ・フェスティバル	様々なニュースポーツの普及等を目的とした交流大会

- 歴史と伝統ある大船渡新春四大マラソン大会を始め、本市出身選手の功績を称えたポートサイドバレーボール大会などのスポーツイベントの開催を通じて、スポーツイベントの盛り上げに努めます。

主な事業	事業内容
大船渡新春四大マラソン大会	県内の陸上シーズンの幕開けを告げる大会として、ロードレース、駅伝の四つの大会を同日に開催
ポートサイドバレーボール大会	バルセロナ五輪に出場を果たした本市出身の栗生澤淳一氏を顕彰し、スポーツ少年団を対象としたバレーボール大会を開催

- 市と市内関係団体からなる大船渡市スポーツ交流推進連絡会議や、県内の自治体や関係機関等からなるいわてスポーツコミッションにおいて横断的な連携を図りながら、大船渡市スポーツ合宿支援補助金の活用などによりスポーツ合宿等の誘致を進めるとともに、スポーツイベントや各種県大会の開催誘致に取り組み、地域経済の活性化とにぎわいの創出につなげていきます。
- BMX<sup>\*1</sup>をはじめとするエクストリームスポーツ<sup>\*2</sup>や、3×3（スリーバイスリー）バスケットボールなどのストリートスポーツを積極的に取り入れ、「する」だけでなく「みる」楽しさも併せ持つ、次世代スポーツのイベント開催やその支援を検討します。
- スポーツイベント等の開催にあたり、市広報だけでなく公式ホームページ、フェイスブックやツイッターなどといったSNS<sup>\*3</sup>と連動した情報提供など、必要とする情報を市民がいつでも入手できるよう、様々な発信方法を検討します。

- 豊かな自然を活用したマリンスポーツなどの普及・推進に取り組むとともに、いわてスポーツコミッションなどと連携しながら、スポーツアクティビティによる地域活性化を推進します。

#### 〈用語解説〉

##### ※1 BMX（ビーエムエックス）

直径の太い車輪が付けられた小型の競技用自転車、及びこの自転車を用いた競技。東京 2020 オリンピック競技大会から正式種目に追加された。

##### ※2 エクストリームスポーツ

速さや高さ、危険さや華麗さなどの過激な要素を持った離れ業を売りとするスポーツの総称。スケートボードやトレイルランニングなどが代表として挙げられる。ファッションや音楽といった若者文化との関連性が強調されているものも多い。

##### ※3 SNS（エスエヌエス）

ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称で、Web上で社会的ネットワークを構築可能にするサービスのこと。個人間のコミュニケーションを主目的としており、Twitter や Facebook、Instagram、LINE などが挙げられる。

## (2) 地域でのスポーツ活動の推進

- 東日本大震災によりこれまでの在り方が大きく変化した地域コミュニティについて、レクリエーションやニュースポーツのイベント開催などを通じ、達成感や連帯感を共有することで、新たなコミュニティの形成を支援します。
- 各地区・地域でのスポーツ・レクリエーション活動に普及・指導の役割を担うスポーツ推進委員を派遣するなど、地域における自発的なスポーツ・レクリエーション活動の支援に努めます。

主な事業	事業内容
スポーツ推進委員設置運営事業	実技指導、助言等を行うスポーツ推進委員をスポーツ大会や親子レクなどに派遣
地域公民館対抗卓球大会	各地域公民館単位でのチーム編成による、ラージボール卓球大会を開催

## (3) 近隣自治体等との連携

- これまで近隣自治体との施設の相互利用により実施されてきた各種大会を、今後も継続して実施するとともに、新たな大会等の誘致に向けた近隣自治体との連絡体制の構築を図ります。
- 市民のスポーツ活動においても、利用者のニーズや利用形態に合わせた施設の補完・相互利用を推進します。
- 各種スポーツ教室や施設、指導者等、スポーツに関する様々な情報について、関係部署や体育協会、NPO 法人等、スポーツに関する各種団体、近隣自治体と共有し、住民個々の興味や目的、ライフステージに応じて幅広く提供できるよう、関係団体等との協議を進めます。



### 3 市民ニーズに応じたスポーツ環境の整備・充実

#### (1) スポーツを「ささえる」人材の育成・充実

- 大船渡市体育協会と連携して、各種目別協会等が主催する指導者養成の各種講習会への参加を促進し、指導者の育成・充実に努めます。また、外部講師による研修会の開催を通じて、指導者の技術向上を図ります。

主な事業	事業内容
認定指導者助成事業	スポーツ少年団認定員の資格取得者の増大を図るため、認定指導者講習会の受講料を助成
スポーツ少年団指導者研修会開催事業	スポーツ少年団の指導者等を対象に、体力づくりやトレーニングに関する研修会を開催

- 大船渡市スポーツ推進委員を各種研修会等に派遣し、スポーツコーディネーターとして更なる資質向上を図ります。
- 大船渡市社会福祉協議会や岩手県障がい者スポーツ協会等と連携し、高齢者や障がい者のスポーツに関する講習の場への参加を促進することで、支援を必要とする人々のスポーツ推進体制を整備します。
- 障がい者の方々が身近にスポーツに親しむためには、指導者やボランティアなどの支える側の人材の育成・確保が重要であることから、大船渡市スポーツ推進委員などを中心に、障がい者スポーツ指導の知識習得のための講習会への参加を促進し、ボランティアの育成等を推進します。

主な事業	事業内容
スポーツ推進委員研修会派遣事業	県内や東北地区で開催される各種研修会にスポーツ推進委員を派遣

#### (2) スポーツ施設・設備の整備・充実

- 将来にわたる人口の減少やニーズの変化、財政状況などを踏まえながら、施設・設備の計画的な整備に努めます。
- 既存のスポーツ施設については、長寿命化への対応を基本とし、利用者の安全性や利便性を考慮し、必要に応じて計画的に修繕、改修を行うとともに、附帯設備の整備・充実、競技種目ごとに規格に沿った整備に努めます。
- 施設の更新にあたっては、必要性はもとより、整備費や将来にわたる維持管理費などの財政負担を十分考慮し、公共施設等総合管理計画等との整合を図りながら検討を進めます。
- 今後、生涯スポーツを推進していく上で、障がいの有無や年齢、性別等に関わらず様々な人々が利用しやすい施設が求められています。国の支援制度等を有効に活用し、バリアフリー化など計画的な整備を推進します。

主な事業	事業内容
スポーツ施設整備事業	市内スポーツ施設の修繕等を行い、利用者の安全性、快適性の向上を図る。

### (3) スポーツ施設等の有効活用

- スポーツ施設の指定管理者に対して、利用者の増加等に資する事業計画のもと、より効果的な運営が行われるよう促すとともに、各施設の課題等について情報共有を図りながら、連携を深めていきます。
- スポーツ施設の利用状況や利用者のニーズ等を踏まえ、施設利用料の在り方について定期的な見直しを行っていきます。
- 学校開放施設の利用を一層促進するとともに、学校統合により廃校となった学校体育施設の有効活用について、地域住民等と検討を進めます。

## V 計画の推進と進捗管理

### 1 計画の推進

本計画の推進にあたっては、スポーツ関係団体を始め、健康づくりや子育て支援、学校教育などの関連部署等との一体的な取組が必要です。大船渡市スポーツ推進審議会等を通じて市民の意向を反映させていくとともに、スポーツ関係団体等の関係機関と連携を図りながら、市民とともにスポーツの推進を図っていきます。

### 2 計画の進捗管理

毎年度、大船渡市スポーツ推進審議会において、各種事業の実施状況や効果、数値目標の達成度などについて評価・検証を行いながら、より実効性のある事業の実施に努めます。また、計画の進捗状況や数値目標の達成状況について、市の広報やホームページを活用して随時公表しながら、市民や関係団体などからの意見を施策に反映させていきます。



# 資料編



## 1 大船渡市スポーツ推進計画の策定経過

月 日	内 容
平成 24 年 3 月	国のスポーツ基本計画策定
平成 29 年 3 月	国の第 2 期スポーツ基本計画策定
平成 31 年 3 月	岩手県スポーツ推進計画策定
4 月 15 日	第 1 回大船渡市スポーツ推進計画等庁内検討委員会
令和元年 5 月 13 日	第 1 回大船渡市スポーツ推進審議会
5 月 21 日	第 2 回大船渡市スポーツ推進計画等庁内検討委員会
6 月 14 日	第 2 回大船渡市スポーツ推進審議会
7 月 3 日	第 3 回大船渡市スポーツ推進計画等庁内検討委員会
7 月 30 日	第 4 回大船渡市スポーツ推進計画等庁内検討委員会
8 月 23 日	第 5 回大船渡市スポーツ推進計画等庁内検討委員会
8 月 27 日	第 3 回大船渡市スポーツ推進審議会
10 月 28 日	大船渡市議会全員協議会
11 月 5 日	第 6 回大船渡市スポーツ推進計画等庁内検討委員会
11 月 11 日～12 月 2 日	パブリックコメント実施
11 月 28 日	大船渡市教育委員会定例会
12 月 19 日	第 4 回大船渡市スポーツ推進審議会（書面開催）
令和 2 年 2 月 12 日	第 5 回大船渡市スポーツ推進審議会
2 月 14 日	第 7 回大船渡市スポーツ推進計画等庁内検討委員会

## 2 大船渡市スポーツ推進計画等庁内検討委員会

### 大船渡市スポーツ推進計画等庁内検討委員会設置要綱

#### (設 置)

第1 今後における当市のスポーツ施策の基本的な方向性を示す大船渡市スポーツ推進計画（以下「推進計画」という。）と、市内のスポーツ施設の整備方針等からなる大船渡市スポーツ施設整備基本計画（以下「基本計画」という。）を策定するため、大船渡市スポーツ推進計画等庁内検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

#### (所掌事項)

第2 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 推進計画案の作成及び関係部署間の調整に関すること。
- (2) 基本計画案の作成及び関係部署間の調整に関すること。
- (3) その他推進計画及び基本計画に関して必要と認めること。

#### (組 織)

第3 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

2 委員長、副委員長及び委員は、別表に掲げる者をもって充てる。

#### (職 務)

第4 委員長は、会議を総理する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する副委員長がその職務を代理する。

#### (会 議)

第5 会議は委員長が招集し、議長となる。

2 会議は、その目的により委員の一部をもって開くことができる。

3 委員長は、必要に応じて委員以外の者に対し出席を求め、意見を聞くことができる。

#### (報 告)

第6 委員長は、所掌事項について検討結果を取りまとめたときは、市長に報告しなければならない。

#### (解 散)

第7 委員会は、第6の報告が終了したときに解散する。

#### (庶 務)

第8 委員会の庶務は、教育委員会事務局生涯学習課において処理する。

#### (補 則)

第9 この要綱に定めるほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

#### 附 則

#### (施行期日)

1 この要綱は平成31年4月10日から施行する。



別表（第3関係）

委員長	副市長
副委員長	教育長、統括監
委員	災害復興局長、企画政策部長、市民協働準備室長、総務部長、生活福祉部長、都市整備部長、観光推進室長、教育次長

### 3 大船渡市スポーツ推進審議会

スポーツ基本法（抜粋）

（都道府県及び市町村のスポーツ推進審議会等）

第31条 都道府県及び市町村に、地方スポーツ推進計画その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査審議させるため、条例で定めるところにより、審議会その他の合議制の機関（以下「スポーツ推進審議会等」という。）を置くことができる。

大船渡市スポーツ推進審議会条例

（設置）

第1条 スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第31条の規定に基づき、大船渡市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を置く。

（組織）

第2条 審議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、スポーツに関する学識経験のある者及び関係行政機関の職員のうちから教育委員会が任命する。

（任期）

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第4条 審議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選とする。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第5条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が召集し、議長となる。

2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（意見の聴取）

第6条 審議会は、必要に応じて専門的知識を有する者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（庶務）

第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（補則）

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

（施行期日）

1 この条例は、公布の日から施行する。

大船渡市スポーツ推進審議会委員名簿

No.	職 名	氏 名
1	会 長	水 野 公 正
2	副会長	谷 山 誠 志
3	委 員	佐 藤 隆 衛
4	委 員	東 芳 江
5	委 員	金 野 律 夫
6	委 員	山 口 明 美
7	委 員	鎌 田 志穂子
8	委 員	白 崎 静 江
9	委 員	菅 生 裕 之